

北海道コンサドーレ札幌 サポーターズ集会 2020



とき 2020年2月11日

ところ 札幌コンベンションセンター 107+108 会議室

2020年サポーターズ集会全文

(司会) それではちょっと定刻より早いですが、始めさせていただきます。
一旦後ろの扉をお閉めください。

まず、今日のスケジュールの中で、最初に皆様にご連絡させて頂くのは2時過ぎに社長が次のイベントのほうに移動されますので、2時過ぎには退出される形になります。

以後はスタッフの方が残っていらっしゃるしまして、スタッフの方に対してのご質問、実際上の運営の上のご質問等は受付できますが、直接社長にお話というものはその前にお済ませ頂きたいと思います。で、2時ちょっと前の15分くらいは今年もそうですけど、関東後援会のほうの紹介と中継をしておりますので、そちらの方からの質問を15分くらい受け付けさせて頂きますので、実際にはこちらの現地のサポーターの方の時間はちょっと限られる状況にあります。

社長には本当は今日ご出席がかなわなかったところを無理に再三お願いをして、ご出席を頂きましたので、その辺の時間の予定がタイトになっていますのは、お許し頂きたいと思います。それでは、スタッフの方をざっとご紹介しますので、名前を呼びましたスタッフは立ち上がって一礼をお願いします。まず会場系のリーダーの千葉でございます。それと干場君。松本君。松本明美さん。渡辺さん。はい、記録係、鎌田さん。熊野さん。高森さん。受付系のリーダー、松村さん。齋藤さん。坂梨さん。それと私齋藤と、録音の方の担当の中川でございます。今年は13名のスタッフでやらせていただきます。よろしくお願いいたします。

(会場拍手)

今年はあえて通常の年よりも30分短くいたしましたのは、チームも順調に勝ち上がっているのと、入場待機列その他もチーム主導の抽選でやっておりまして、その辺のトラブルもなくということで、運営上のトラブルが少ない状況で、サポーターズ集会であまり煮詰まったお話をする状況にはないかな？というふうに思いまして、ちょっと時間を短くさせていただきました。

じゃ、社長の方に、私の話はいいと思いますので、社長お願いいたします。

(社長) こんにちは。

(会場) こんにちは。

(社長) 何から話しましょう。

僕は昨日沖縄から帰ってきて、キャンプの話とか今シーズンの話は後程するとして、ご存じだと思いますけど、結構新しいことチャレンジするけどやられますというようなことの繰り返しなんで、どんよりはしていると思いますけど、こういう時こそ、多分自分たちの立ち位置って何なんだろう？というのを選手も我々もしっかりともう一回足元見つめ直すっていうのは結構大事なかな？というのを感じた数週間でした。

去年ルヴァンでいいところまで行ったので、タイトルを十分獲れる、むしろ次は獲らなくちゃいけないんじゃないかというふうに、いい意味で勘違いしてもいいんですけど、そこまで本当に確実に狙えるくらいのクラブなのかというと、はっきり言いますが全然そうじゃないです。

但し可能性は見せられる。これを継続していくことができれば、間違いなく本当にタイトルを獲れるというところを、誰に言っても恥ずかしくないくらいのクラブにはたぶんなれると思うですよ。ね。

継続していくというのが一番ある種難しいところで、例えば今年のチームの補強、皆さんこれもよくわかっていると思いますけど、去年いるメンバーが全員残りました。

新しく大学卒業の選手が3人入って、この間ブラジル人が来てますけど、去年いた人達を残すことだけを考えても、去年よりも2億円くらい強化にお金を使わないと去年の選手たちを残しておくことはできないですね。

他のチーム見てみればわかると思いますけど、J1でそんなに資金力がないんじゃないか？と思われるチームはだいたいいい活躍をした若い選手、中心選手は大きなクラブに移っていく。

なんとかそこを食い止めることは今シーズンはできましたということですよね。

これにプラス、じゃ、もっとさっき言ったように「本気でタイトルを狙ってますよ」って言っても、どのチーム、どのサポーターに言っても恥ずかしくない戦力を維持することができるかどうかってところで必要なのはたぶんあと5億・10億は絶対必要です。

最初の話に戻ると、コンサドーレは確かにちょっとずつ力を付けて、少しずつ大きくはなっているけれども、去年準優勝だから常に上目指せるよねというようなところまではまだ来てない。ここははっきり伝えておきます。じゃあ勝てないのか？というと、それはそうではないですよね。ただ勝つ確率を上げるためには現場が頑張るのはもちろんですけど、クラブ側もどれだけ売り上げを伸ばせるか？というところが、常に言いますけど、一番僕は大事なところだと思っています。数字の話を一応すると、昨シーズンの売り上げがほしい、まだまだ確定ではないですけど、36億くらいかな？前のシーズンがほしい31億くらいだったので、それなりには、5億円くらいは売り上げが増えていると。で、去年、予算はマイナス1億2千万円くらいの予算を組んだんですけど、着地もマイナス1億5千万円くらい。要は赤字ですよ。

赤字になりますよ。赤字にしますよっていう予算を組んで、ちょっとその予算よりも赤字幅が増えそうですけど、予定通りに近い恰好で終われそうな状況です。

いろんな売り上げが増えていて、何が足りなかったかというと、これ結構シンプルで、ユニフォームスポンサーで空いている場所がパンツと肩とあったと思うのですが、そこを去年のうちに取ることが、取ろうと思ってやったんだけど取れなかったっていうのが若干赤字幅が増えた要因だというふうに思っていて大丈夫かなと思います。で、いずれにしてもこの3年、去年・一昨年・今年か、この3年間は赤字予算を組んで、現場だけじゃなくて、チームの運営経営の方にもある程度お金を投資をして、オリンピックが終わった来シーズン以降にどうやって回収していくかっていうことを目的にやっているんで、赤字なのは全然もう予定通りなんでいいです。これが売り上げが伸びているかどうかが一番重要で、今シーズンは、これは僕の感覚というか一応経営を任されているものとして、今シーズンで来シーズン以降今年でたぶん売り上げ40億前後くらいになると思うんですね。40億っていうと、それでもJリーグ、J1の中で13番目から15番目くらいです。10番以内に入りたければ50億を売り上げないと、今のJリーグの中でも勝負ならない。どっかのタイミングで僕言いましたけど、トップ10のクラブにしたいと僕は思っていて、今年でそのトップ10に入っていけるような、なんらかの取り組みができそうだと思うと、僕はそこを続けたいと思っています。もし今シーズンでちょっとこれ難しいよねというふうに判断をするなら、現状のサイズで、ようはJリーグの中で上から数えて13番目15番目くらいのクラブをなんとか維持するということを繰り返しながら、ちょっとずつ伸びていくようなことを目指す、僕はそれはあんまりやりたくないんだけど、目指さざるを得ないような状況になると思っているので、こちらとしては僕として今年は結構次の仕掛けがしっかりはまるかがすごく大事なシーズンだというふうに思っています。

今の状況というのは、このサイズのままだでも結構魅力的で、みなさんみたいに応援してくれる人たちはたくさんいるんで、十分価値のあるクラブだとは思いますが、「もっと勝ちたいよね」とか「本当にタイトル獲りたいよね」と思う人たちも多いのは現実なので、そういう人たちの思いにこたえるにはさっき言ったみたいに50とかその先を売っていくようなクラブにならないと、

そういう人たちのその思いはなかなか叶えることができないので、なんとしてもそのトライを続けたいとは個人的には、今の経営の代表の責任者としてはそこを目指したい。

なんで今年だけかと、今年がラストチャンスぼく僕伝えてると思うんですけど、かという、やっぱりそれなりの戦力を維持するにはそこに投資しなくてはいけない、でも売り上げが50億まで到達しない当然と赤字になる。以前のコンサドーレと同じように、債務超過になってクラブが存続できない状況になるようなタイミングがやっぱこのまま続けていくとどっかでくるので、今年が僕は一番のポイントになるシーズンかな？というふうに思ってます。

なんとなくわかりましたかね？大丈夫すかね？大丈夫すか？とはいえ、とはいえですよ。

僕は今年8年目になるんですけど、7年前は売り上げ10億円くらいです。今日10億円の売り上げって、Jリーグ日本の中で50数クラブある中でだいたい33番目くらいのクラブだったんですよ。33番目といったら、J2でやっぱり15位くらいのクラブという位置づけです。

それが多くの人の協力をいただいて、ここまでできたので、これからもうちょっと上にいけるようにしたいな。ままま、長いスパンというか、この7年のスパンで言えば順調に来てはいるかな？というふうに思っています。

選手の話のほうわかりやすいと思いますけど、もし去年より、赤字の予算にしないで今年の予算を組んだ場合、2億円以上が、もっとかな？、数億円お金が足りなくなるですよ。

そうすると、どういう選手というこれはまたあれだな。

何人かのレギュラーの中心選手は放出せざるを得ないというような状況になりますよね。

うちのチームはほかの例えばJ1のある程度出来上がった上の方のクラブは、例えば30億円というバジェット、まあ強化費があったとして、平均年齢がだいたい30くらいなので、そろそろ30歳でそのチームの中心から外れそうな選手を外に出して、その分の1億円で新しい選手を獲得ってことをやればいいんですけど、うちの場合は平均が25歳のスタメンで、その選手たちを残そうと思ったら当然活躍したから残す、いい選手だから残す、給料は上がるってことになりますよね。これは例えばソンユンの話は前でここで話したかもしれないですけど、数百万円から始めて例えば2千万3千万になる、他のクラブからオファーがくる、だけどクラブの売り上げが上がる、ソンユン、俺もちょっと払えるからもうちょっと一緒にやっということの繰り返しを今も全員の選手と一緒にやっているような状況です。まあまあ、そんな感じですかね。最初の話に戻りますけど、とはいえ、去年もいいところ魅せられたし、一昨年もリーグの中でも4番になれたりしてるので、今の選手達でやりようによっては充分面白いところは魅せられるし、魅せてくれるかな？というふうに思っています。

あとは、お金の話はだいたいそんな感じ、経営の話はそんなところですかね。

今年が結構ターニングポイントですよっていうこと。そのターニングポイントというのは本当に大きなクラブ、上を目指すようなところに向かっていけるか、それとも今まで築いてきたものを地道になんとか維持しながら少しずつ伸びていくかっていうようなことのターニングポイントということです。一気にこれがガクツとなっちゃうということではないです。

はい、あとは何があるかな？もう少し話をすると、大きくなっていくためにはどうしなくちゃいけないのかというのは、これはもうシンプルで、コンサドーレにどのくらい価値があるかっていうことを7年前くらいからやってきました。で、現状コンサドーレっていろんな価値があるよねってわかっていたいたいたスポンサーの方とかサポーターのみなさんもそうですけども、そういう人たちが集まってここまでクラブが成長してきてると。この先、さっき言った50とかJ1のトップ10に入っていけるようなクラブにするためには、その価値をもっと大きくしないといけないし、それを認めてもらわないといけないですね。となると、やっぱり、国内道内、国内だけではなくて、海外特にアジアの人たちにコンサドーレの価値を認めてもらうような取り組みをより多くやっていて、そこで新たなパートナーと組みながら、コンサドーレが大きくなって強くなることでその

企業がより、その企業のビジネスがしやすくなるような取り組みをやっていかないといけないなというふうに思っています。

外資なのかは置いといて、より今までとは違う視点でいろんな仲間を作っていくってようなことをしないといけない。できるといいなと、そんな感じ。まあ変な話、この辺まではこれと思っていたので、これから先はまた本当に僕も変わらなきゃいけないし、うちのスタッフも変わらなきゃいけないし、もしかすると現場と同じようにスタッフの補強みたいなことももっともっとやっていかないといけないのかな？というふうに思っています。

はい、この辺で何か質問を受けますか？経営のこととかで。

（司会）経営の関係に関するご質問がある方、何件か3件くらい受け付けますけど、ある方挙手をお願いします。ワイヤレスマイクもって、スタッフがそちらの方に伺いますが。

経営に関してのご質問。

はい、ビデオカメラの前にいらっしゃる方。お名前を名乗ってからお願いします。

（オオタケさん）オオタケと申します。

（社長）はい、お願いします。

（オオタケさん）お願いします。

今回社長の方から、経営というかお金の、スポンサーさんのお話いろいろあったと思うんですけど、今の中国で新型コロナウイルスですよね、ああいうのが発生していて、私はちょっと心配なのはトーホウリゾートさんがですね、スポンサーになっていただいて、中国からの観光客がかなり減っている状況とかあると思うんですよね。

例えば社長のところに実際サポートしていただいている企業の方から本当にコンサドーレをサポートしていて、「いいなあ」とか逆に「もうちょっとなんかなあ」とかそういう話、新しいお客さん、スポンサーさんも必要なんですけど、今いるスポンサーさんにずっと応援していただいたりとかそこの金額をもっと増額してもらったりとか、そういうところのお話を聞けたらいいなと思うんですけど。

（社長）いろんな話は来ますよ。今トーホウリゾートさんの話がありましたけど、コンサドーレと関わるようになって、実際に売り上げが上がったとかよかった話もくれば、もうちょっとこういうことができないか？というネガティブな話というよりは、一緒にこういうことができないか？という話はちょいちょいきます。クラブの売り物ってある意味決まったりするんですよね。わかりやすく言うと、ユニフォームスポンサーは5か所くらいしか売り物はないですよ。で、おっしゃるようにひとつひとつの単価を上げることができると売り上げは伸びます。

それをやらなきゃいけないのと、新しい売り物を作っていくということもやらなきゃいけない。例えば新しい売り物って最近だと何があるかっていうと、チャナがいるみたいなことも含めて、アジアへ向けたプロモーションのパートナーにコンサドーレを使ってみませんか？っていう商品があったりします。そこでいうと、魅せ方としてコンサドーレを通じて、アジアの、例えばタイの人たちに商品をPRするっていう、ありきたりっていうと怒られちゃうけど、普通のものもあれば、逆にタイで働いてるタイ人の人たちを抱えているような日本企業が「うちのクラブはチャナティップのいるコンサドーレをサポートしている会社なんだ」ということで、その職員、社員の人たちのモチベーションを上げるための商品をうちで用意するとか、いろんなことは取り組みとしてやっていますと。それから、一番最初にいった今の新型肺炎のこともありますけど、これだけなかなか想像もつかないようなことがほんとに起こったときに、もし中国の企業と何かやっていたら結構な打撃になるかもしれないなとかっていうようなことは容易に想像できますけど、さっき言ったみたいに、道内にくるインバウンドの人たちが減っているのは旅館とかホテルとかだけじゃなく、多分全部の業界が多分困ってますよね。その時に少しでもうちが何ができるかということ、それこそ、

もしうちがタイの、チャナティップも含めたさっき言ったアジアでの取り組みをしていなかったとしたら、その分もいなかったということになるわけで、少なからず北海道にはコンサドーレを通じて、プラスアルファでも多くの人たちが来てくれている現状があるので、この新型肺炎に関して何か特別なことができるかといえば、できないかもしれないけども、もしコンサドーレがこういう取り組みをしてなかったらもっと大変なことになってたよねということはいえたりと思うので、継続してそこはやっていきたいなというふうに思っています。まあそんなところですよ。

（司会）はいありがとうございます。

次のご質問、承ります。

もうひとつ方いらっしゃいましたよね？

はい、どうぞ。

（カキウチさん）すいません、カキウチと申します。

（社長）はい。

（カキウチさん）よろしくお願いします。

（社長）はい、よろしくお願いします。

（カキウチさん）ちょっと先程のお話の中でひとつ伺いたいことがありまして。

（社長）はい。

（カキウチさん）ユニフォームでスポンサーがつかない名前が入らないところがいくつかあったと。その話の中で何故スポンサーがつかなかったのか？そのうえで今後どうやってここを埋めていくのかっていう様な社長のイメージだったり方針であったり何かあるんでしょうか？

（社長）去年の段階で、毎年そうなんですけど、「ここはいくらの価値があるからいくらで売ろう」という値段設定を当然クラブはします。で、シーズン始まる時にはその金額を出して一緒にやりましょうというところはいなかったんですけど、何社か可能性のあるところはあったんですね、ただそこがうまく成立しなかった。これも1月2月3月くらいで決まればいいですけど、じゃあ6月に決まったときに、その価値が一体いくらなのか？結構めんどくさいことがあったりして、これはうちの営業と博報堂と一緒にやってるんですけど、とはいえ実際に埋まらなかったのはやっぱりその価値を払ってもいいですよというパートナーとめぐり合わなかったから。ただこれは去年から継続してセールスしてることなので、今期に関してはおそらく埋まるだろうと。そこはさっきも言った通り、うちの営業と博報堂と一緒にやっていることなので、なかなか今「はい、ここです」とは言えないですけど、なんとかそこは埋まるだろうというふうには思っています。

（カキウチさん）あともういっこいいですか？

（社長）はい、どうぞ。

（カキウチさん）ちょっとですね、この間、地下鉄に乗っていたんですけども。

（社長）はい。

（カキウチさん）年配の方が、ルヴァンカップ終わったときに年配の方が話の中で「サッカー強いの？」みたいな話をされたんですよ。素人的にみて何だったんですけど、ルヴァンカップ終わった1週間後とかに、安いスポットとかでもよかったんですけど、なんかそういうのを全道メディア的にラジオテレビでやるっていうのは・・・

（社長）どういうのですか？そういうのっていうのは？

（カキウチさん）んーそうですね。イメージでいうと、武蔵選手だったり北海道出身の選手だったりが出て、「これで勝ったら日本一になれます。頑張ります。北海道のみなさん、一緒に応援してください」みたいな15秒っていうのをひとつボンとやって、終わったあと「準優勝になりました。みなさんのおかげです。今後ともよろしくお願いします」みたいなもの・・・

（社長）それってテレビ？

(カキウチさん) イメージ、テレビラジオのイメージでした。っていうのをやっても面白かったのかなあと個人的に思って・・

(社長) まあまあまあ、それは面白いかもしれないですね。

そこに一体いくらかけて、それをやるのがいいのか？本来だったら、今までの感覚だったら、去年のルヴァンの決勝の状況になれば当然大手メディアは露出してくるでしょう。

で、露出してくれてたでしょう。でも、それじゃ足りないよねっていうこと言いたいってことですよ？

(カキウチさん) そうですね。

コンサドーレを好きな方々、私もそうですし、そういう人たちにとっては勝手にある程度耳にはいつてくるものですし、目にするものだとは思いますが、興味のない層ってのにアピールするのであれば、それもまたひとつの方法ではないのかな？

(社長) それは大手メディアじゃないの？

(カキウチさん) なんですけれども、なんでしょうねスポーツニュースとかでやられるのと、朝の番組の中でポンとCMとして打たれるのは目にするイメージが違ってくると思うんですよ。

(社長) CMで打つとかということね？全然費用対効果としてそれが正しいのかどうかの判断をしながらやっていくんだと思います。ただそれがルヴァンのファイナルだからそれをしたほうがいいのか？通常の中でいろんなタッチポイントを増やすために、今でもいろんなことをやってるんだけれども、そういうことを継続してやっていくのがいいのか？

いずれにしても、一般の人に多く目に触れてもらう機会を増やすってことになったら、結局お金がかかるんですよ。そこまでお金をそこに突っ込んで、どういうメリットがあるかってことを当然考えながらやらなきゃいけないので、おしゃられることはよくわかりますよ。

タッチポイントが増えたら増えただけ、コンサドーレのなんとなくの、普段の生活の中で何も興味がない人が関心を持ってくれる可能性は高くなるわけですけど。変なことを言ってるとは思わないです。その通りだと思うけど、限りあるお金をどこに使うか、「じゃあそこに1千万2千万かかるんだったら、大卒の選手を一人とったほうがよかったよね」と思うかもしれないし、僕が言ったみたいにスタッフで1千万円で誰か能力の高い人を取った方がいいかもしれない。

全然間違ったことを言っていないと思いますけど、僕はどこに使うのかいいのかということの中のひとつに、そういうタッチポイントを増やした方がいいよというのはしっかり頭に入れていきたいと思います。ありがとうございます。

(カキウチさん) すみません、素人で。

(社長) 全然、全然、全然、そういうもんですから。みんなに知ってもらいたいもんですよ。

おじいちゃん、おばあちゃんが「つえーのか？コンサドーレつえーのか？」って言ってるのちょっとカチンとくるよね。

(カキウチさん) きますね。正直、「J2なの？J1なの？はあ？」

(社長) それはわかるんだけど、これがまた難しいよね。

(カキウチさん) それはもうみなさん重々考えられて。

(社長) だから、ここ7年前に始めた時にはやっぱり大手メディアに出してもらったり、タッチポイントを常に多く増やしてく、今でも大事だとは思ってますけど、当時思ってた大事さよりも今みたいにD A Z Nで見たい人を見る、見たいと思わせることができるかどうかという時代に入ってきたりと思うので、一般の生活している中のタッチポイントよりはスマホの中のタッチポイントをどれだけ増やせるかみたいなことのほうがこの先考えると結構大事だったりするのかな？と思ったりしてます。頑張らせます。というか、頑張ります。

(カキウチさん) すみません、ありがとうございます。

(司会) はい、ありがとうございます。

じゃあ最後の経営に関するご質問です。

あとひとつ受けられますが、なければ社長のお話を継続させていただきます。

じゃないみたいなので、社長、

(社長) 何にしますか？

(司会) あの中島さんをご紹介いただき。

(社長) 中島？

(司会) 初めてなので。

(社長) 中島、今更。

去年？一昨年？去年から来てるんですけど、その前は博報堂から菅原っていうのがきていて、菅原君が出世してもどちゃったんですよ。で、新しく来たって。出世して戻ったでいいんですよね？

(会場笑い)

コンサドーレのおかげで出世した人が戻った。。これ動画撮ってるからやめようか。で、今来て1年たった。

(小林副社長 挨拶)

(会場 拍手)

(社長) 一応言っときますけど、暁星ー早稲田で早稲田卒業したあとにレッズ入ったんですよ。

見てください、こんな感じなのに、サッカーやってたんですよ。ちょっと能力が足りず、2年でやめて(笑)それ合ってます？(笑)この世界そういう世界なんですから。能力あったけど自分でやめたっていうなら訂正してもらっていいんですけど。そういう感じです。

でもそれでスポーツビジネス、キャリアも一応Jリーガーとしてやってきて、そのあとそのキャリアを生かそうということで、それですぐ博報堂でしたっけ？で今きています。サッカーに関してはなんとなくは発想は持っている。あとはスポンサー取れなかったら彼の責任ですから。

(会場笑い)

お願いします。

(司会) ありがとうございます。

もしかしたら、早稲田のサッカー一部出身だったら、将来サッカー協会の偉い方になる可能性もあるんですよね？

(社長) また僕にしゃべらせると失礼なことになりますよ(笑)大丈夫です、大丈夫です。

(司会) あ、次はキャンプの状況ですとかその辺をお聞かせいただけますでしょうか？

(社長) 現場の話をすると、僕はまあ純粋に思っていることは、ミシャさん3年目で、3年間やってきた選手はやっぱりミシャが何を求めているかっていることを十分理解しているんですよね。新しく入ってきた選手はまだなかなか理解できてないので、そこに食い込んでいくってのはまだ実際簡単ではない。だからレギュラーだという選手がなんか間違いなくレギュラーだよっていうことをいいほうに持っていければいいんですけど、僕は今、結構逆な様な気がしてて、後ろの3人なんかはもうどんな変なプレーしてもゲームに出れるだろうという風に思ったりするんですよね。それが僕的には腹が立つ(苦笑)

で、これも報道で結構伝わってるかもしれないですけど、1年目2年目と積み上げてきたものにプラスして3年目は前からプレッシュイングしたりいろんな変化をつけようということで、新しいトライをしてるから、そのトライがうまくいかないこともあったりするんですけど、うまくいかないからっていったってそのパフォーマンスで出てやってる選手を常にスタートから使うのはどうなんだろうな？というふうに、たぶんですけど出てない選手は思うと思うんですよ。

それは絶対よくないよねという話を最後にミシャさんとして、帰ってきたんですけど。

とはいえ、レギュラーであろう選手達がしっかりコンディション作ってゲームにできれば絶対それなりにやれることはよくはわかっているんですけど、そんな甘い世界でいいのか？っていうのはある。

ただ最後のほうになって、特に新卒の3人は3人ともすごくいいパフォーマンスを魅せてるので、その3人がレギュラーになるような状況になったときには結構面白いかもしれないですね。そうすると誰か当然3人くらい出れなくなるんですけど、でも、新卒の3人がゲームにでもおかしくないくらいのパフォーマンスをしているのはあります。

あとは、外国人、ジェイはああいう感じなので（会場笑い）、ああいう感じ？ どういう感じ？ ジェイってすごいんですよ。僕は本当にすごいなあって思うのは、正直2年前はミシャがきた1年目とかは、ちょっとゲームに使われなかったりうまいかなかったりすると、日本人的な感じ方からすると態度悪いんですよ、文句は言うし。で、ミシャさんもあんまりそういうもの、あんまりというかあの人絶対好まないですから、もうジェイ終わったなと思ったんですよ。でもね、ジェイはすごいってのはミシャ詣を繰り返すんですよ。

（会場笑い）

どこが悪い？ どうしたらいいんだ？ みたいなことから、もう普段の話まで。で、去年も終わりかと思ったんですよ。でも、まだ生き残ってるのは、俺本当にすごいと思っています。パフォーマンスとしては、やっぱり年齢も含めて少しづつ難しくなっていくんだろうなあと思うんですけど、そうまでしてもゲームに出たいって思ってるのは、これはすごい。ただ見方によると、そういうのが嫌いな選手はいますよね。「なんであいつ、こび売ってるんだよ」みたいな。そういってる選手でやれてればいいんですけど、そう言ってる選手に限って自分がやれてない。ジェイの振る舞いが正しいがどうかは分かりませんが、「とにかくゲームに出るために何でもするぞ！俺は」というくらいの空気があったほうがいいのかなとは思っています。

言いたいのはブラジル人2人、3人か2.5人、3人。もっとそういう思いとかギラギラしたなにかとかをを見せてほしいなあっていうのが僕が一番最近感じることです。

圧倒的に日本人よりも優れていれば、もしかすると目をつぶってでもゲームに使うかもしれないけど、そうじゃないような状況だと思うので、そういう人たちをどうやってこうマネジメントしていくのがいいのかな？ みたいなことを僕ら側でやれることをよりやっていきたいなと思います。あとは、選手で言うと、誰かな？ 頑張っている選手は、頑張っているというアピールしているなという選手は、さっきの大学上がりの3人と、白井とかですね。

やっぱり、なんかこう絶対自分の方がいけるのによって思ってるような選手は結構やれてるかな？ というふうには見えます。

怪我、深井も怪我したり怪我治ったりの繰り返しだからまだコンディションがそんなによくない。駒井に関してはだんだんだんだんやれるようにはなっているかな？ と思いますね。

あいつの場合も1年やってないので、自分でできると思うようなコンディションになったとしても、もしかするとスタートで出れない。じゃあその時の振る舞い方とかが、チームのためになるような振る舞い方ができればきっとゲームに関わってくることができると思いますけど。

まあめんどくさいんですよ、サッカー選手みんな、自分が一番だと思ってたりするので。

そうじゃないとダメな部分もありますけど、グループの雰囲気はどうその秩序を守っていくかみたいなことは、ミシャさんだけでできればいいんですけど、できなかった場合はこちらでも、サポートしてやっていくというようなことになると思います。

まあそうですね、戦力的に去年のにプラスアルファ駒井と3人がいて、うまくはまると、さっきも言いましたが、上に行ける可能性もあるでしょう。逆にうまくはまらなかった場合には上に行けずに、残留争いもしなくちゃいけない可能性も十分あると。これは一番最初に話したチームの強化費がどのくらい使えてるのかという話と同じようなところで、それ心配なくていいよね？ というふうになるにはこっち側が頑張らなければいけないし、クラブが大きくなっている間に選手たちも伸びていかないといけないというような状況は変わらずです。

あとは、ルヴァンから始まりますけど、ルヴァンだと怜か竜孔が出るんですよね？そうだよ？そうっすね？あとは、小次郎がでるっていうのもあるかもしれないですけど、キーパーね。
キーパーの話で言うと、なんか出てましたよね、田子ちゃん。タイのなんか。発表、獲ったの？
(会場笑い)

獲ったみたいなんですけど、広報に確認しておかないとね。キーパーのこと言いますね。

阿波加がタイで結構大きな怪我しちゃったんですよ。

で、うちとして考える一番の方法は小次郎を常にゲームに関われるような状況にするかどうか。

例えば阿波加の怪我が2か月かかるとして、その2か月の間にルヴァンも始まりますよね。

勿論キーパー二人が元気ならいいんだけど、もしなんかあった場合のことを考えると、小次郎がずっとその間帯同できるのが一番よかった。だけど、ちょっと大学との兼ね合いで難しいです。じゃあどうするかと考えた時に、これもみんなわかってると思いますけど、ソンユンが来年から今のままでいくと兵役に行っていなくなってしまう。来年以降、菅野と小次郎と阿波加ともう一人、レギュラーを競ってもらえるような選手を来年は絶対獲らなきゃいけない。

そう考えたときに、今回のタイ代表のキーパーを獲るのがいいこ、来年のことを考えるといいのかな？っていうのが、そういう考え方流れで今回に至る。

今回の選手を獲れる獲れない、移籍がかかるかからないってのもありますよね？

要はお金をかけずに獲れるような選手で、来年もうちの中でやっていける可能性が高い選手、プラスアルファ、チャナがいるので、ブラジル人が何人かいるとブラジル人のコミュニティができあがって精神的なゆとりができてパフォーマンスができると同じように、チャナのメンタル的なコンディションをよりよくしてあげられる方法のひとつかな？ということもあって、そのタイの子、カウィン、名前覚えられないですけど、になったということがあります。

どんな人かっていうと、僕会ったことないし話したことないんですけど、当然それは強化スタッフがプレーの能力とかタイプとか性格も含めて決めていくんですけど、僕はチャナと話したりして、「この選手どうよ」って言ったら、チャナは結構好きみたいです。

チャナが好きならもういいかっていうのが、(会場笑い) 僕の最終的な「それでいいんじゃない」「っていうところになります。なんか、まじめでもう練習やめたほうがいいのに続けちゃうような選手みたいなことをチャナは言ってました。当然すぐになにか、菅野とかソンユンを超えるような何かをぱっと魅せられるかどうかっていうと、ゴールキーパーはそんな簡単じゃないと思うので、来期以降このチームで続けるかどうかっていうのをこの1年間かけて、うちにはまるかどうかを見るにはいい機会かな？というふうに思っています。ただ当然その分プラスアルファお金はかかるんですけど、そこはしょうがないかなと思っています。プラスの方だけ考えて1年前倒してちょっとトライするチャンスを与えられたというのとチャナを含めたタイの人たちのメンタル的な充実を促す。もしかしたら、ビジネス的にも何かやりようがある。

今日うちのスタッフがいますけど、チャナだけじゃなくもう一人いたほうが仕事のやりやすくなるようなこともあるのかもしれないので、いずれしてもそうなったということはそういうチャンスをうまく生かしていけたらなあと思っています。

====テーブル交換の為音途切れ====

(司会) お名前を名乗ってからお願いします。

(サイトウさん) サイトウです。

宜しくお願いします。えーとですね、携帯見てたら、あのブラジルから、ドゥグラス、でしたっけ、なんか、レンタルで取ったって言う話聞いたんですが、

(社長) はい。

（サイトウさん）どういう意味で、あの、取ったのか、と言うのと、どういう選手なのかって言う事をお聞きしたいです。

（社長）はい。ドゥグラスね。

（サイトウさん）はい。

（社長）ドゥグラス・オリ、ドゥグラス・オリヴェイラ。

名前は結構やりそうじゃないですか。（会場笑い）あの一、只まあ、今いるブラジル人、ルーカスとかロペスとか、とはもう全然違って、違うって言うのは、キャリアとか今迄の実績とかって言うところ、ですね。ほんとに、大学生を一人獲るのって、その年でかかる費用って、まあまあ、大学生の給料ってもう最初Jリーグどのクラブも決まったりするので、支度金とかも含めてもう数百万円で大学生は最初の一年目、はい、獲れるんですけど、もうそれと同じ位の費用で、うちのチームに今入って貰ってる選手、ま、これはもうその費用を考えれば分かると思いますけど、彼の、その、可能性を買ってるみたいなところ、ですかね。ま、190近くあって、一応サイズとかスピードとか身体の強さはあるので、それが、日本のサッカーの中で生かせる可能性があるっていう様な位置付けの選手。そう、兎に角もう、ちょっとおかしいなって思うのは、日本のメディアとあって、ま、ドゥグラスが来ます、そうすると、なんかもうスーパースターが来たみたいで、記者さんとかテレビの人達がドゥグラスにインタビューする、んですよ。もう全然そんな位置付けでは無いです。そんな位置付けでは無いですって言うか、もう一番下から這い上がっていくチャンスを僕は、彼に与えて、勿論、頑張ってる欲しいと、思いながらね、そっから、一年かけてどういう風に次への、次のシーズンへの、その契約延長が出来るかどうかの可能性を見せられるかっていう位置付けの選手です。ブラジルのサッカーってほんとにこうゆっくりなんですよ。だから日本に入って、ミシャのトレーニングやって、まあ、練習試合やったりして、もう、攻める守る攻める守るの繰り返しを、やってるので、本人の中では、なんじゃこりゃって思ってると思います今。だからその中でも、まあ、日本人には無い、良い物は、時折見せてはくれているので、まあちょっと期待はしたい。当然期待はしてます、よね。はい、そういう感じの選手、です。

（司会）はい、よろしいですか？

（社長）まあだからあれなんです、多分、強化、の、としては、殆ど、他で獲らずに、お金をかけずに、獲得して、ま、昔のそのダヴィとかダニエルソンとか、ま、そこまで育てられたらいいのになって言う感じなんだと思います。まあそれもあの一、サッカーのビジネスとしては当たり前前のビジネスなんで、まあ、それでうちのチームで活躍して、尚、より、高いところに行って貰えるんだったらもう、一番良い、ですよ。今年、うちの選手、日本人選手にもまあちょいちょい来ますからね。まあ皆さん分かってるかもしれないですけど、まあ、最初に言いましたけど、まあ、何とかキープは出来ました。で、シーズン中にも何人かには他のチームからオファーは来てる。で、オファーが来た時にどうするかと言うと、その選手にこのチームからオファーが来てるよ、どうする？、でも大体みんな、いや、ここに残ってやります、って言う事で残ってるんですね。で、シーズンオフにも、多分メディアに出てないと思いますけど、まあ、ある選手にも来てます。もうその、うちのチームのレギュラーの選手。同じ様に、この金額で売って下さい、っていうのはクラブに来るんですね。で、クラブは、その金額で、じゃあ良いですよって言うと、相手方のクラブと、その本人が会って話が出来る状況になるんですけど、向こうのクラブから、例えばじゃあ、一億円で売って下さい、と言う風に来て、僕らが、いやいやもうそれは1億じゃ売れません、2億だったら良いですよ。

向こうがそれでも買いますって言ったら、本人と交渉が出来るんですけど、まあまあ今回に関しては、まあその金額が多分ちょっと折り合わなかったみたいな所はあったかもしれないです。

で、この先も絶対に結構来る。来るし、それがまあ国内だけだったらあんまり出て行かないかもしれないですけど、海外から来た場合は、まあ、ここは、選手の、その金額がまあ、余りにも低

すぎたらあれですけど選手のキャリアを考えて、それなら頑張っておいでっていう風になる可能性は結構高いですかね。でもまあ大体平均25歳ですからね、もうラストチャンスを狙ってる様な選手達が結構うちのクラブ沢山いるんで、まあそんな状況です。で、まあ良く聞かれる事ですけどチャナに関しては一回も来た事が無いです。（会場笑い）一回も無いですねえ。 はい。

（司会）ありがとうございます。

じゃあ、はい、いや、後ろの方が早かったので後ろの方先にお願いします。

（セリカワさん）セリカワと申します。

宜しくお願い致します。

（社長）お願いします。

（セリカワさん）今年と言うか、かなり先の話をして申し訳ないんですけど、

（社長）はい。

（セリカワさん）えーと、ミシャの次の監督についてなんですが、

（社長）ほっほっほっほ。

（セリカワさん）ミシャにはもう、何年でもやって頂きたいんですけど、ま、じゅう、年齢とか健康面を考えて、ま、10年先の訳では、ミシャはない。で、個人的には、このミシャの次の監督っていうのは非常に大事だと思ってまして、ミシャがやって来てくれた事を、残しつつ、更にミシャに無かったものを上積みする。これじゃないと多分コンサドーレの発展は無いと思うんですけど、只これって口で言うのは簡単ですけど、物凄く難しい任務なんじゃないかなと思ってます。ミシャの影響力が強すぎるが故に。でーまあ、それを上積みするってなると、どんなに経験のある監督とか、実績のある監督でも、ま、外部から来た人間はちょっと難しいのかな、とか思ったりします。そこでですね、まああの、コンサドーレにはもう一人、優秀な監督がいらっしゃるので、四方田監督という優秀な監督がいらっしゃると思うんですけど、まあ社長が、ミシャ就任した時に、四方田監督に、まあ、指導者としての引き出しを増やしてもらって、いつかもう一回みたいな、お話を軽くされていたと思うんですけど、ま、今でもその考えが残ってらっしゃるのかなっていうのをお聞きしたいんですけど。

（社長）了解。

えっとね、ミシャが、ミシャさんじゃなかったら外部から連れて来るのは難しい、難しいかもしれないけど、僕の中では、まあ、お金はいくらかかるかは別として、その、世界でやってる選手、あの、監督で何人かは、あ、もう、その人、だったら全然いけるなっていうのは、まあ、あります。っていうのはまあ、一つね。で、四方ちゃんの話も含めて、じゃあ、ミシャさんと一緒に仕事をしている人を継続してやらせるのが良いつてのは、まあ、これが一番リスクの無いやり方、で、僕もそれは、そうあった方が良いかと思ってます。

ただし、四方ちゃんだけじゃなくて、ま、僕の考えの中では、ミシャっていうのはちょっと特別な哲学を持った人のその哲学を、今迄、なんだろう、その感覚は無かった日本人の指導者に何人に、それを伝えられるかっていうのは、結構これはもう一つ僕の仕事だと思ってるんですね。

日本人の指導者で優秀な人は沢山いるけれども、じゃあミシャさんの哲学を、それこそ引き出しに入ってる様な人は全然多くない。だから、ミシャがいる間に何人かの日本人の指導者に、ミシャと一緒に仕事をしながら、その哲学、その感覚を持って欲しいなっていう人の中の一人にまあ、四方ちゃんがいる。で今だったら、ブルーノもいる。まあ、他の若いコーチ達もいる。

で、まあ、わかんない、場合によっては、日本人の指導者で、来年、今年なのか来年なのか分からないけれども、この指導者にもミシャさんの、感覚を、ちょっと引き出しの一つとして持ってもらいたいなっていう人を、もしかすると一緒にコーチとして呼んで来る、かもしれない。

だから、ま、勿論、あの、今の所で言うと、きっと、四方ちゃんが、何か引き継ぐのがスムーズなのかもしれないけど、ミシャ、今迄コンサドーレやって来た事を引き継げる感覚を持った良い

指導者を、一人じゃなくても良いっすよね。ただ、何人もそこには置いておいた方がクラブの為にもなるし日本のサッカーの為にもなると思ってます。外部から連れて来なかった場合は、あのーさっき、仰られた様に、今の、やり方を分かっている人で、少しく、それとは違う発想を持った人をはめるのが良いと思ってます。まあまあ結論で言うと、誰になるかはわかりませんよ。大体、僕がその時、クラブにいるかどうかはわからないんだから。でも、流れとしてはまあ、そういう流れ。じゃあそれがブルーノしかないとか、四方ちゃんしかないんだったら、それはそれで僕、勿体無いと思うので、何人かいた方が良いと思ってます。

(セリカワさん) ありがとうございます。

(社長) はい。

(司会) はい、じゃ次、前の方、はい。

(クニエダさん) クニエダといいます。

宜しくお願いします。

(社長) お願いします。

(クニエダさん) サポーター初心者です。

(社長) はい。

(クニエダさん) あの、素人の発想で申し訳ないんですが、

(社長) はい、どうぞ。

(クニエダさん) あの、北海道の野鳥で、「シマエナガ」という鳥が何年か前にSNSで流行ったそうなんですが、何かコンサドーレとコラボとコラボしたりですとか、そういった事はないでしょうか？

(社長) ちょっと、その鳥が何なのかが分からないものですから。

(クニエダさん) あの。

(社長) いや、調べ、調べておきますよ。

(クニエダさん) ああ、はい。

(社長) あの、調べておきますし、ま、鳥は結構、あ、大丈夫、座って下さい。鳥ね。

あのー、Jリーグ、あの、高円宮妃殿下ってその、日本サッカー協会の、に、あのー、中で、そのサッカーとの関わりがこう非常に強い、妃殿下が、鳥が好きで、「Jリーグ鳥の会」ってのがあるんです。でー、どういうのかって言うと、うちの場合はほら、ドーレ君が、鳥ですよ、あれ。

(会場笑い) あれ鳥、鳥です。

で、何チームか鳥のマスコットの所があって、そこのチームだけで「Jリーグ鳥の会」ってのを、あの、やってるんですね。え、だから？って感じかもしれないですけど。(笑い)

ま何とか、今の質問に対して膨らまそうと思ってるんですけど。(会場笑い)

だからその、鳥の会で、さっき言った、鳥、と何か、出来たら、良い、かもしれないですね。

あの、最近あの、高円宮妃殿下もあの、北海道に来て鳥を見たりして、たりするんですよ。

そのリーグ鳥の会で。だから結構色んな、活動はされてる様なので、言ってみます。

ありがとうございます。

(司会) ありがとうございます。

あー、エ、エナガって言うんですか？

(クニエダさん) シマエナガ。

(司会) シマ、白っぽい鳥なんですか？

(クニエダさん) 白っぽい鳥です。

(司会) あー、はい、可愛い鳥です。

えー他にご質問ございませんか？

はい、真ん中の方、はい。

（一条さん）すいません、一条と申します。

宜しくお願いします。

（社長）お願いします。

（一条さん）VRについて、

（社長）はい。

（一条さん）お聞きしたいんですけど、

（社長）あー。

（一条さん）オフサイドリレーとか、

（社長）はい。

（一条さん）プレーが止まった時に、

（社長）はい。

（一条さん）んー、スタジアムの空気も僕は止まるんじゃないかと。

（社長）止まりますよね。

（一条さん）それって、せっかく盛り上がったのに勿体無いなーっていう風に思うんですけど、

（社長）はい。

（一条さん）その対策とか、例えばビジョンで何か流すとか、

（社長）ま、ビジョンは何か流れる、と思いますよ。

（一条さん）それって、この、レフリーの、これ、じゃないんですかね。

（社長）あ、あの、映像が流れます。

その、レフリーが見てる、レフリーがVR、の、ま、カメラで見えますよね。

あれと同じ映像が、流れる。

（一条さん）個人的な感覚で、去年の湘南戦だったと思うんですけど、チャナがハンドで、あの、一回ゴールが止まったシーン、

（社長）あーあーあー。

（一条さん）なったシーンがあったと思うんですけど、で、ゴールが復活した時に、ゴールが決まった感情を思い出せなかった。

（社長）うん。

（一条さん）あんまり、

（社長）そうね。

（一条さん）喜べなかったんですよ。

（社長）そうなのそうなの。

（一条さん）その時の、なんか、盛り上げ方とか、（会場笑い）

（社長）あー。

（一条さん）スタジアムでなんか、（会場笑い）

（社長）いやだからもう、そうなんだって。

ほんとにそうで、でもじゃあそれが欲しいなら、もう、VRやめるしかない。

（一条さん）そうなりますですね。

（社長）そうなりますわね。

そうなるか、ま、そもそもだけど、俺はVRはいらないと思って、たのね。

今でもちょっと思ってるんだけど。

ゴールラインテクノロジーだけでいいかなっていう風には、まあ、思ってるんですけど、ま、でも、この流れは止められないから、もうそこは我慢するしかない。

（一条さん）ですね。

（社長）かな。

(一条さん) なんか、映像とか使って、もう、盛り上げろよ、みたいな感じで。

それがルールとして許されるかどうか、私は分からない。

(社長) え、その、入って、

(一条さん) そうですね。

(社長) 入ったけど、ピピって鳴ってVRのチェック入りますよっていった時に喜べない、その、

(一条さん) なんか、

(社長) 時間を埋める何か。

(一条さん) そうそうそうそう、そうです、そうです。

(社長) それで取り消されたら余計なんかちょっとショックだよ。

(一条さん) そうなんですよ。(会場笑い)

だから何か考えられないかなって。

(社長) ねーまあ、そう、これはでもほんとに考えた方が良いのよ。

(一条さん) うん。

(社長) 考えた方が良いし、い、今はVR始まったばかりで、介入しすぎる、よね。

えー、もう、ほんと、明らかな間違いの時だけ入る、はずなんですよ。

でもあのー、ま、テレビで見てる人も分かるかもしれないですけども、1センチ2センチみたいな所を、今もうVRで取りに行っちゃうので、あれやめたいよね。本来のルールは、明らかになっていうところだから、もう1センチ2センチとか、まあ、例えば5センチ10センチでも、止める瞬間がどこなのかで全然違うんですよ。この間僕審判にちょっと聞いたの。

どのタイミングで止めるのかって言ったら、なんかね、ここだと思ふタイミングの、1、2、3コマ位で止める、らしいんですよ。但し、その1コマと3コマの間に、ボールは30センチ位動く、足は30センチ位動くのよ。って事は、1の所で止めたらオフサイドだけど、3の所で止めたらオフサイドじゃないみたいな事が、ま、普通にある、ような物を使ってるっていう事を、でも全ての人にそれを、あの、分かれっていうの、無理、じゃない。絶対揉めますよ。ぜったい揉めます。で、あのー、これもこのルール講習会で審判の方にも、一応僕の思いとして言ってるんですけど、えー、これ覚えてる人いるかどうか分かんないんですけど、この間のU-23で田中碧が退場シーンが、あったんですね、VRで。一発レッドになったんですけど、であれも、どのシーンを切り取るか、で、一ヶ所だけ切り取ったらもう、そのプレーはきっとレッドカードだよなっていう、その写真はあるんですよ。でもその、前後の文脈、ま、流れを考えた時に、もう明らかにレッドカードじゃない、ですよ。だけど、審判がもしその写真を、その瞬間を、止めて、ビジョンに見せた時に、なんか多くの人が、あーこれはもしかしたら退場かもしれないなと思っちゃうみたいな事が、絶対に起こります。ただ、今の世の中、と同じで、なんかこう、バァーっと沢山の事をしゃべった一部分だけを取って、こう、揚げ足を取るみたいな、世の中じゃないですか。多分、サッカーもそうなると思います。

(一条さん) はい。

(社長) だから、まあ、それがプラスに働く事もあるかもしれないけど、嫌な思いをする事もある、前提で思っというてもらわないと。でも、結局それがサッカー、なので。

理不尽な事を受け入れて、次に進んで行くっていう事を、サッカー少年達は小っちゃい頃からやって来た、ですよ。だからもう全部が、あの、上手く回るという事は絶対ない、ですけど、そのつもりでVRとちょっとかか、あの、付き合って貰えたらなと思います。

(一条さん) はい、ありがとうございます。

(社長) ありがとうございます。

(司会) はい、次。

え一次のご質問の方、えーと先程手を挙げられてた方いらっしゃいますか？あ、もう良くなりました？同じ様な内容でした？えーそれでは、えー、一回、あ、後ろいらっしゃいました？

あ、じゃ、後ろの方、真後ろの方、はい、はい。

（オオカワラさん）えー、ユースサポをやってますオオカワラと申します。

（社長）お願いします。

（オオカワラさん）ユースや、あ、アカデミーの選手の栄養補給についてちょっとお伺いしたいんですけれども、

（社長）栄養補給、はい。

（オオカワラさん）あの一、練習後に、直ぐに栄養、あの、栄養補給するとやっぱり身体作り大事だと思うんですけれども、ユースや、リラ、の選手は平日練習すると練習終わりが、もう9時近くとかなると思うんですけれども、チームとしてそう、直ぐに栄養補給出来る様な、体制っていう事は何か考えられてるのかなと思って、質問します。

（社長）出来る範囲の中で、多分考えてる。只それは出来る範囲の中でね。要は一番良いのは、あそこに、練習場の所に食堂が出来て、そこで何かを食べられてみたいなのが一番、良い、って事、ですよ。まあ、それはもう当然、誰でも分かる事で、じゃあそれを、どうやって作る、のか？えーと一、例えばあの土地って、行政の持ち物、だったりするので、この位の建物を建てると、どんなサポートがある、又は今迄サポートがあったものがサポートが無くなっちゃうみたいな事、が、あったり、する、んですよ。

えーだから、まあ、お金がもしあったとしてもそんな簡単に雇来に何かが出来るって事ではないんですけれども、まあ今言う様な事は、まあ改善出来る物は、出来るレベルで改善していくのか、根本的に改善していくのか、ま、両方当然考えながら、やっていかなきゃいけないよね、っていう風には思います。って言うのと、一方、一方でっていうかな、っと、そこも勿論大事なところなんですけど、アカデミーの今迄の指導とか、それこそ哲学的な物は、それで良いのかっていう事の方が、結構僕は重要だと思っていて、まあまあ何年か前から、少しずつこう、変わって行ける様に、トライはしている。もし、あれだっ、あの、結構見てるなら、中学生とかなんか、なんか最近やってるサッカーとかだいたい、クオリティー高くない？

（オオカワラさん）高いですね。

もうやっぱり、年々、下の、子は、本当上がってきてると思います。

（社長）だ、それが下の子の能力が上がってきてるっていう、んじゃないくて、そこに、で、教えるそのコーチ達の頭ん中が少しずつ多分変わってきてるから、ユース、アカデミーが見せるサッカーが多分変わってきてる、と、思う、のね。

で、そこを、どういう人を置いたらどう変わるか。

只そこをじゃあ、まあ、ばんと、5人も10人も連れて来て変えたらよりハレーションが起こっちゃうので少しずつでも、こういう人を入れたら少しずつ変わっていくなって事を今、3年位かけて今やってる、んだけど、そっちの、変化を付けていく方が、将来的なコンサドーレの将来としては大事なと思います。あの、飯の所も、何とか。

（オオカワラさん）あの、限られた予算あると思うんで、直ぐには改善出来ないと思うんですけど、そういう事も念頭、に置いて、活動して頂けると、

（社長）うん。

（オオカワラさん）サポーターとしてちょっと嬉しいんで、宜しくお願いします。

（社長）あのね、念頭にはもう、もう、100%置いてる訳。そこをやる為の費用をどう捻出するかっていう事が難しいっていう事。だからねえ、そこもやれる様になると良いんだけどねえ。なんか一回でもねえ、理念強化配布金15億位入ったらすぐ出来るんだけど。（会場苦笑）あざーす。

(オオカワラさん) すいません、ありがとうございます。

(社長) あざーす。

(司会) はい、すいません、じゃあここで一旦休憩に入ります。後ろの時計で、1時15分、から再開致します。また質問をお受け致します。

—休憩—

(司会) えー、一旦扉を閉めて頂きます。

それでは、先程挙手されて、当たって無い方、もう一度手を挙げて頂けますか？

3名。はい、あ、まずそちらの柱の方にいらっしゃる方、順次、当てて行きますので、お名前を名乗ってからお願いしまーす。

(尾崎さん) あ、あ、あ、あ、はい、尾崎と言います。宜しくお願い致します。

(社長) お願いします。

(尾崎さん) えー社長の方から話あったところなんですけど、ま、タイキャンプについてなんですけども、えーとですね、現地の皆さんのそのなんちゅうか歓迎ぶりっていうのはどんな感じなのか、ま、ちょっとだけ、ちらっと見た中であの一、飛行機会社の中でもあの一、単に団体様とか出さないで、こう、コンサドーレみたいな感じで出して貰ってみたいな話、ちょっとちらっと聞いたなんかしたんですけども、

(社長) おーおー。

(尾崎さん) えー、タイのこう、地元の方々がこうなんちゅうか、見に来てる様な感じなのか、ま、あるいはこう、日本であれば今の時期ったら大体こう、スポーツニュースとかでサッカーはあんまりやらないですけど、ま、野球のキャンプとかなったらこう連日、あの一、なんかニュースでもやる様な感じなんですけども、こう、地元のメディアとかでもこう、取り上げて貰って様な感じなのか、その辺のなんか雰囲気ってのちょっとわかるところあれば教えて頂ければと思ったんですけど。

(社長) はい。

えーと、ま、チャナがいるので、大分融通きかしてくれるんですよ。多分チャナがいるからだと思いますけど。空港でのその荷物の、受取りの融通とか、ま、ホテルの、待遇とか、以前はあの、グランパスが使ってたホテルなんですけど、んーまあ、グランパスが他でやるって選択になったのかもしれないですけど、まあ、うちを、入れてくれて、る、とか、後は地元の人達っていてもそのね、めちゃ田舎なんです。もう、ゴルフリゾートで、あの、環境はすごくいいんですけど、近くに人が沢山いるかっていったらそうではない。

只、まあチャナを見に来る、コンサドーレを見に来るって人は、まあまあ増えてるかなとは思いますが。荒野ーとか言われますからね。(会場笑い) なんで荒野かはよくわからないですけど。

でも、ま、あの、コンサドーレの認知度は、これはもう色んな調査でも明らかになっている位、ま、Jリーグのクラブの中では一番、あー、タイの人達にとっては認知されているクラブで、タイの人から見るとやっぱりこう、少しその憧れる様な存在には見られているので、色んな意味で、融通きかしくて良いキャンプが送れています。

で、後はメディアのところですけど、タイのメディアちょいちょい来てますよ。どこのか分からないですけど。ただそれが、じゃ、誰でも見れる地上波なのかどうかっていうのはちょっと分からないですけど、ま、タイの人達は多分日本の僕らよりも、より、ネット、での接触の方が多分多いと思うので、タイのネット環境っていうかなあ、その、もうダメなんだろうけど、違法サイトでばんばん、コンサドーレが流れてるみたいな、いいか悪いかは分からないんですけど。あの一正しいサイトでも流れてますけどね。

えー、だ、タイの人が、あのー、コンサドーレの事を、チャナティップを経由して気にしてくれてるのはもうこれは明らか、です。あの、なんか一応一試合やったんですよね。

7、8千人お客さんが来て、あの、どこ、6－0位で確か勝ったんですけど、あの、なんか、優勝セシモノみたいな（会場笑い）、のを用意してくれたり、只なんかあの、ちょっと改修中だったみたいで、うちの強化スタッフが一週間前にそのグラウンドを見に行ったらもう、グラウンドはボコボコだし、ロッカールームが今改修中で無い状態だったんで、そこではもう出来ないって言ったんですよ。そしたらそっからの、あの、何日間かで、ま、ビニールシートではあるんですけど、あの、すんげえでっかいロッカールームみたいなのを作ってくれたり、芝生も、一週間前とは比較にならない位良く整備してくれたり、すごくあの、言ったらやってくれるっていうところなので。快適には過ごせて、いたと思います。はい、ありがとうございます。

（司会）はい、ありがとうございます。はい、じゃあ、真ん中の方。

（高橋さん）高橋と申します。

宜しく、えーと、サッカー素人ですけど、宜しくお願いします。

（社長）お願いします。

（高橋さん）えーと去年ですね、あの、ガンバ戦、ルバンのガンバ戦を終える迄は、自分がまさか、あの埼玉スタジアムに行ってるとは、予想もしないで、

（社長）はい。

（高橋さん）えー、いたんですけども、まあそういう事で今年もですね、つい先日、ゼロックスカップがありまして、今迄は殆ど他人事として見てたのが、何かこう真剣につい見入ってしまったと、いう事で、こういう選手達はいつ休んでるんだろうとか、いつ、練習してるんだろうとか、本州の選手が非常に、まあ、チームが羨ましくなったと。もし、近い将来ですね、もしかしたら今年かもしれないですけども、そういう事で何らかのタイトルがかかった試合、あるいはACLの、に、関わってきたりした場合ですね、冬場の選手達の練習、そういったものにどう備えていくかっていうのは事についてお伺いしたいんですけど、宜しくお願いします。

（社長）これ今でもそうなんですけど、もう12月の、ま、第一週迄は、大体リーグ戦ありますよね。で、ホーム、あの、最終戦に設定されているんで、ま、去年もそうでしたけど、雪が降っちゃうと、満足なトレーニングが出来ないっていう状況、じゃあその時にどうするかっていうと、雪のない所まで、南下して、南の方に行って出来るならやるっていう風な事で今誤魔化しては来てるんですけど、まあ仰られる様に、雪が降ってもなんか普通にトレーニングが出来る様な環境を、ま、作らないといけない様な、時があるんだろうなとは思います。

えーだからそれをどうやったら作れるかっていうのはまあまあその、それこそお金の事も含めて、あの技術的には出来るものはあったりするので、そんなにコストかけずに、そんなにコストかけずにつつつても、億かかるんですけど、そういうものを用意する様に、なれる様に、こっちは準備してくって事ですよ。でまあ、それこそじゃ今年、最終戦に、勝ったら何かが、かかっている、でも大雪で、練習が出来ないっていう状況があった時に、果たしてどうするか、ちょっと何とも分からないですけど、それこそ出来る所迄行ってトレーニングを一週間やってくるみたいな、あー、事をして、までもその、コンディションを作る、のが必要だとするなら、ま、そういう選択はするかもしれないですね。

只まあ、いづれにしてもやっぱこの、あの、シーズンをどう動かしても、北海道で雪が無い中でシーズンを終えるって事は絶対出来ないんで、ま、それを言い訳にしない様に出来る何かを、やっぱ近い将来準備していかなきゃいけないというのは、まあ間違いなくある、と思います。

（高橋さん）えっとあのー、道内で、まあ、苫小牧室蘭とか、或いはえーとユースの選手が使ってるかどうか、ま、素人で分からないんですけど、東雁来の方にある練習場とかそういった所、屋内とか屋根のある練習場っていうのは使え、る事は出来ないんでしょうか？

(社長) 屋根の所で、それこそじゃあ天然芝の所なんか、ある、訳が無くて、まあそれこそ体育館とか人工芝のちょっとした所だったら屋根のある所は有りますけど、そこで、用が足りちゃう様な、強度のトレーニングだけでいいなら、ま、そういう所使えばいいんですけど、それじゃちょっと、コンディショニングするのもその何か調整するにも足りなくなる筈なので、天然芝、又はもう人工芝だけと天然芝に近い位のクオリティのある1面あって、何らかの屋根がついてる様な物を、まあ、どこにどう作るかっていう事、をやっていないと冬場にかかる所は結構大変になっちゃうでしょうね。

(高橋さん) まだ現実的に検討されて…

(社長) あ、まあ、いくつかの技術はあるんで、まあ、そういう業者、から、色んな話を受けたり、こっちから聞いたりしてはいますけど、まあまあいずれにしても金かかるんすよ、ほんとに。(苦笑) これはほんとにかかる。じゃあ、そこに3億円かけて、あるかないか分からない今のシーズンでいうと、11月12月の一週間の為に、まあ、一週間二週間の為に、そこに数億円入れられる様なクラブでは今の所ないですよ。だから、ほんとにもうそれはトレードオフで、そこに3億円を選手に使わないと今はダメだと思ってるので、そっちに使ってる。

そうしないと落ちる可能性が高いんで。でもこれがもう少し売り上げが伸びてある程度落ちる可能性も無くなってきてるよねってなった時には、もう1ランク上にいく為にそっちにお金を使うっていう風な順番だと思って頂ければいいかなとは思ってます。だから分からないですよ。

この先どのタイミングでどの施設をうちがどう使うかみたいな事も、わかんないですからね。

えーまあ、その、多分この後もしかしたら質問であるかもしれないですけど、その、専用スタジアム云々かんぬんとか、じゃドームとどうやっていくのかみたいな事も含めてね。

まあ、これはその時代なのか世の中なのかの流れを見ながら、ま、その流れを作りながら、どこでボンと行くのがいいかを、あの、こっちは狙ってるっていう状況です。はい。

(司会) はい、ありがとうございます。じゃあ次の方。はい、一番後ろの真ん中の方、ですね。

(オオタケさん) えーすいません、あの、オオタケです。

(社長) はい。

(オオタケさん) えっと、去年、あの一河合CRCの引退試合、あの是非やって下さいってお願いをして、あの、すごく素晴らしい引退試合、見せて頂いたなと思ってます。

で、あの、ま、私もそうなんですけど、これからも、やはりあのうちにほんとに、あの、貢献してくれた選手にはそういう引退試合ってものをやって頂きたいんですけども、やっぱ去年の様に、こういう場で何かそういうお願いをしなければいけないのか、もしくはもう会社の方で、やる、選手は、

(社長) あのちょっと食い気味にいきますけど、お願いをされたからやったんじゃないですからね。

(オオタケさん) それは、すいません。ごめんなさい。(会場笑い)

(社長) お願いをされなくてもやっています。

(オオタケさん) あ、はい。という事はもう、会社の方としても、この選手は、やる、やるっていう頭、社長とか幹部の方にはあるという事で、

(社長) ひとまず、まず、やりたい選手とやりたくない選手がいますね。わかります？

ただ、選手それぞれですからね。600試合、700試合出ても、もう俺はそんなのいらないよって言う選手の為にやる必要は、僕は全然ないと思う。でもやりたい、お世話になった人達の為にさせる事も必要だと思う選手は、やりたいんであれば僕、俺はやればいいと思ってます。

それがじゃあどっから線引きかっていうのはすっごい難しいですよ。

Jリーグの場合はJリーグとして認めるかどうかは、ま、500試合とかっていう線引きがあったりするんですよ。えーでもきっと、今仰られた方からすると、コンサドーレで、例えば50試合しか出てないけど、この選手の見たいとかって言う人から、ま、一杯いるよねきっと。

(オオタケさん) ま、まあ。

(社長) だ、どこが基準なのかって明確になんかわかります？

(オオタケさん) いや、あの明確な基準はないと思います。そのやっぱり、一人一人の、

(社長) ないよね。

(オオタケさん) うん、サポーターの中の思いつてのがあると思うんで。

(社長) そうそうそう。

(オオタケさん) うん。

(社長) だ、まず本人が、それを、やりたいと思うかどうか。

竜二はやりたがりだったんですよ。(会場笑い&拍手) あ、これは後で竜二に聞いて下さい。

でもほら、あの、感謝の、気持ちを伝える為にやりたいっていう、風に、多分思ったんだと思うんですよ。で、これはどういう質問でしたっけ。

(オオタケさん) あの一、会社としてどういう風に今考えているのかなっていう所と、

(社長) はい。

(オオタケさん) あと、ま、私の気持ちの中では、

(社長) はい。

(オオタケさん) 次はやっぱりあの、ウッチーの、内村選手の引退試合を今度は、見たい。

(社長) だ、そうなってきたら、キリがないよね。

ほんとにだから、そこは、や、ウッチーやりたいって言ってきたら考えますよ、それは。

でも言ってこないでしょ。(笑い) 言うてくる？(会場&社長笑い) いやでも、ほんとにこれ、ほんとにキリがないわけ。内村は、やるのに上里はどうすんの？とか。じゃない？

(オオタケさん) ま、そうですね、確かにそうです。

(社長) えー、じゃあ野々村やった？みたいな、さ。(会場爆笑)

(オオタケさん) すいません、そこはほんと、申し訳なかったです。(会場若干拍手)

(社長) じゃあ結局そうなるんですよ。

もう、それぞれの人の想いがあるんで、じゃあ、その人にとってはすごいやってくんきゃおかしいでしょって思うかもしれないけど、一方の、こっちの人は、いやいやそれは普通でしょって思う様な事、の、ま、線引きは無いものなので、クラブとしては別に誰のはやらない誰のはやるとかって決める事はないです、絶対。

只、ある選手がやりたいんだけどって言った時には、やったら、その選手にとってもクラブにとっても、良いものが出来上がるなと思えば、やるし、えー、お前やって大丈夫かっていう様な、人が言ってきた時にはそういう話をするし。でも、もう、素晴らしいものが僕は出来ますってんだったら、じゃあお前、自分でやってみ、って言うかもしれないし。

(オオタケさん) そうですか。

(社長) ま、ま、そういう事です。んも、ノーでは全然ないですよ。

ただ、ウッチーはちょっと何ともわかんないすね。難しいよね。

ウッチー、やって、ヨコはやらないとかさ。ま、そ、あ、の全然、だからウェルカムですよ。

ウェルカムだけど、あの、簡単な事情ではないっていう。そういう事です。

(オオタケさん) あと、すいません、社長、

(社長) はい、どうぞ。

(オオタケさん) 一つ、お願い、になるんですけど、

(社長) はい。

(オオタケさん) あ、今年の、あの一、日程をちょっと見まして、あの一、私の中でこう、ぐーっときたというか、あ、7月の、いつだったか、浦和戦があ、駒場、でやるんですよ。たぶんオリンピックの、からみだと思うんですけど。

で、私がその、20年前、あ、社長が、うちのキャプテンで、あ、J1に上げた年なんですけど、あれ、駒場だったんです。で、当時の駒場ってほんとにアウェイのサポーター、出島って言われてる、あそこもう密集にさせられて、で、いった、私初めてあそこ、行ったんですけどほんとに怖かったんですよ、浦和のサポーターの人達が。

あ、ほんとに、今の埼玉スタジアム以上にほんとに駒場って、なんかすげえスタジアムだなと思って、ま、うち勝ったんですけど。で、ま、その後、ま、今年のスケジュールでいったらそこで今度中断になって、で、その後、アントラース、ヴィッセル、フロンターレって、やっぱり、凄くこう、強豪と思われるチームが続くところなんで、ここの、あ、アウェイの浦和戦は是非ともその、もう、順位とか、その、状況とか、じゃなくて、まああのほんとにその選手に例えばボーナスを、つけて、ほんとにここはもう勝ちに行くんだっていう所を、まあ、社長、含めてですね、ちょっとこう、考えて頂ければなと思ってお願いします。

(社長) すごい偏ったお願いですね。(会場笑い) えー、まあまあまあ、どの試合もそうですけど、ま、レッズだから勝って欲しいって事ですよ。

(オオタケさん) %& # ! * (←マイク音無しの為不明)

(社長) え、そういう事ですよ。

(オオタケさん) % \$ # ! * (←マイク音無しの為不明) (会場笑い)

(社長) あ、人參作戦とかあんまり、ま、そ、金額次第なんですけど。sonだけ上げただけでお前ら頑張るんだったら最初から頑張れよって思うんですよ。(会場笑い)

えーまあまあ、大事なゲームである事は間違いないっすね。

この、オフに、入っていく、前の、ま、駒場でやるんだ、そうなんだ。

えー、駒場じゃ、ちょっと、あれなんですか、埼玉スタジアムでやって欲しいなと思うんですか？

(オオタケさん) & % # ! * (←マイク音無しの為不明)

(社長) がいいの？

(オオタケさん) # % & ! * (←マイク音無しの為不明)

(社長) はいはいはい。

(オオタケさん) & % # ! * (←マイク音無しの為不明)

(社長) 良かったって感じなんですか？

(オオタケさん) & % # ! * (←マイク音無しの為不明)

(社長) なるほど。

(オオタケさん) & % # ! * (←マイク音無しの為不明)

(社長) あ、はい。

(オオタケさん) & % # ! * (←マイク音無しの為不明)

(社長) はい。

(オオタケさん) & % # ! * (←マイク音無しの為不明)、あ、ごめんなさい。

うん、かえるかどうかちょっと、

====テープ交換の為音途切れ====

(質問者)・・・で、うちの選手、社長もそこで試合されたし、うちで言うと河合CRCとか、先程の中島さんもたぶんレッズの事、うん、なんです。本当にすごいっていうのは分かっていると思うので、そういう所も含めて本当に勝って欲しいなっていう。

(社長) そうですね。はい、有難うございます。

(司会) はい、有難うございます。じゃあ、まだ他にもあると思いますがここでちょっと、関東サポの方、川越さん、どうですか？今年も関東サポ、中継していますので、質問があれば。

(川越さん) 関東後援会川越です。宜しくお願いします。

(社長) お願いします。

(川越さん) 28名程、関東の方で中継観ていますので、そちらからあった質問のうちの一部を、まず質問させてもらいます。

博報堂さんから、出向された方もいらっしゃると思うんですが、今まで博報堂さんと契約して来てどういったメリットがあったか教えて欲しいんですけど。

(社長) それ、質問ですか？

(川越さん) はい。

(社長) メリット、そうっすね。人、まず今4人、来てるんですよ。

人の数の問題は、当然プラスにはなる。一番大きいのは、何年前？4年前ぐらいから？4年前ぐらいから始めてるんですけど、コンサドーレの一番最初の質問にあった様に、露出をどう確保するかって所では、今は、本来だったらD A Z Nとの絡みで、ホームゲームの中継はそんなに出来ないんだけど、コンサドーレとしてはホームゲームを全部、地上波で放送して、あんまり興味の無い一般の人達に観てもらおうというようなトライをして来たと。

それを実現させるのっていうのは本当に簡単ではなくて、博報堂みたいな代理店がいないと、テレビ局が動かないみたいな事はある。実際にそれが出来る様になった所はひとつメリット。

もう1個、2個、細かなメリットは結構沢山あるですよ。売上と一緒に伸ばして行こうという事なんで、たぶん最初始めた時は15億くらいの売上が35億になって、40億になりそうなんだけれども、ここまで一緒にやって来て、色んな所で良い事はあったと思います。

但し、契約した時の僕のイメージは7年くらい掛けて、30億とか35億にして行くってというような座組みで、一緒にやっているんですね。思った以上に、それが早く出来ちゃっているんで、今日、最初に話した様に、次は50億どう到達、どういう方法で到達して行くかっていう時に、博報堂さんの知見なのか力なのか、どれだけ活かされるかは、今日、最初に言いましたが、僕は今年がターニングポイントだと思っています。

そこで、どういうアクションが起きて、実際に将来、その可能性、50とか100とかに向かって行ける可能性が見えるかどうかを、博報堂さんと一緒にやってくれるかどうか、どういうメリットがあったかという、それなりのメリット今まであって、只、僕が望んでいるメリットは、今シーズンに彼らと一緒にどういう事が出来るかという事が、一番大事な所かなと思っています。

(司会) はい、宜しいですか？

(川越さん) はい。

(司会) はい、次、あとふたつぐらい。

(川越さん) はい。ふたつ目は、ちょっとユースの事なんですけども、現状チームが置かれてる環境が変化する中で、昔と違ってなかなか、トップに選手を一人ぐらいしか排出、毎年、ひとりぐらいですね。ぐらいしか、排出出来ていませんが、現時点のユースのミッションとは、どの様に考えておらっしゃいますやら？

(社長) ユースのミッション？

トップチームに上がる選手が出てくる事が、当然、ひとつのミッションですけど、コンサドーレで育った若い子達が将来にわたっても、コンサドーレの事が好き、サッカーの事が好きっていうような子が、どれだけ増えていくかっていう事の方が、僕は大事ななと思っています。

ホームの最終戦の時、前なんかは、最近、OBの子達で、試合やったりしてますけど、アカデミーで育った子が大人になって、中には自分で何かを、事業をやるような子もいたりして、そういう子

達は、いろんな形でチームをサポートしたいという風に、思ってくれるような子達が出て来ているんですね。まあ、20年もアカデミーやっていれば、そろそろ、いい年になっていますもんね。ひとつは、そういう子を、一番の目的は、そういう子を育てて行くっていう事。

プラス、能力のある、上でもサッカーを続けて行って、世界へ出て行けるような子を育てるっていうのは、その次ぐらいの目的かなという風に、僕の中ではそういう風に思ってる。

たぶん、知られたように、なかなか上がって来なくなりましたよねっていうのは、やっぱりトップチームのレベルが上がると、上がれないんですよ。

さっきの質問にもあったように、3年、4年くらい前から、少し考えを変えないと、いい子が出てこないという風に、僕は思っているので、そのトライアルを3、4年前から始めてます。

どのくらいの子達に、感覚的な感じですけど、また別の、簡単に言うとミシャの所、ミシャのチームに入っても出来るような哲学を持った指導者を3、4年前から置いてるんですね。

その子達が中1から始めたとして今、中3、高1、これもう少ししないと、面白いなって、今までとちょっと違うなって選手は出てこないかもしれないですけど、そのトライは、もう実は数年前から始めてるという事は、少し頭に置いといてもらえたらなと思っています。

(川越さん) 有難うございます。最後にちょっと気が早い質問なんですが、

(社長) はい。

(川越さん) 夏場に超大物とか補強は考えていますでしょうか？(会場・・・笑い)

(社長) ちょっと前にWシューバーとかの話とか出たりはしましたが、まあこれは、常に必要、必要と言うと変だな、この選手を獲ったら、クラブがこうやって変わって行くって画が描けて、それに賛同してくれるような、要は資金を、ある程度一緒に捻出していきながら進んで行こうよという人がいるんで、出てくるのであれば、これはいつのタイミングでも大物が、に、オファーするって事があっておかしくないと思っています。クラブの経営がより上に向かって行くような補強なのか、あとは現場がその選手が来る事であきらかに戦力としてプラスアルファをもたらすかどうかという、その二つが揃えば、別の夏じゃなくても、夏にじゃないとフリーにならないというのもあるんで、実質は、夏にそういう事があってもおかしくはないですよ。そういう考えがないかって言うとなんか事はないんで、只、簡単じゃないっていう事は間違いなく言えるのかなとは思いますが。

(川越さん) はい、ありがとうございます。お時間・・・

(司会) まだ、ありますか？

もうひとつぐらいはいいですけど、はい。

(川越さん) じゃあ、最後の質問をさせていただきます。

監督に、監督じゃない、社長にする質問かどうか分からないんですが、松山光プロジェクトの実績を、一様計画、報告予算とか、決算とかが、今はなされてない様なんですが、こういう事は定期的にご報告して頂けないでしょうかという質問が来ています・

(社長) 僕が帰った後に誰かに、誰か答えられる人いる？じゃあ、その後で。

それは何？報告してくれて事じゃなくて、そういう風にして欲しいって事なら、僕が聞いて伝えますって事で終了で大丈夫？

(川越さん) ええ。

(社長) でも、今、報告出来る数字なんて持ってる訳ないか、じゃあ、その部が承って伝えます。っていうか、聞いてます。

(川越さん) はい、分かりました。お願いします。

(司会) はい、じゃあこれで、関東サポ終了とさせていただきます。有難うございます。

今年そうなんですが、ここのコンベンションセンターの方に本州のサポーターから、FAXでいろんな質問が届いたりしてるんですけども、基本的にFAXでは受付はしておりません。

議事録に残して置いて頂きたいのと、関東方面では、関東後援会の方で、に、加入して頂くなりして、そちらの総会に出て頂ければ、こういった形で質問をしたり、ライブでその状況を中継で観る事が出来ますので、そちらの方にご参加頂ければ、助かると思います。以上です。

では、札幌会場の方の質問にまた戻ります。はい、どうぞ。

（滝谷さん）すいません、滝谷と申します。

宜しくお願いします。

（社長）お願いします。

（滝谷さん）去年から始まったグラフィックデザイナーの相澤さんとのプロジェクト、デザインもすごい良くて、サポーターの評判もすごい良いんですけども、実際にグッズ売上に対しての効果ですとか、一緒に手を組んだ手応え、或いは今後の展開等々、聞かせて頂ければなと思います。

（社長）はい、その通りで、今まで誰かがデザインする何かよりも、遥かにカッコいいなと思う物が増えていると、グッズに関しては去年からちょいちょい、これもある程度、数を限定しながら出してはいるんだけど、グッズで140%くらいかな、アップ、誰か、たぶんそんなぐらい、要は1億、2億弱だったのが、2億数千万円ぐらいの売上が伸びたりはしているんですね。これは、リーグの中ではグッズに関しての売上はほんとに少ない方、但し、去年、一昨年って、グッズは無理に手を付けさせなかったんですよ。って言うのは、相澤さんみたいな人と一緒にやって、どうやって売って行くか、<???><エトウ?>さんみたいな人達と一緒にやってどうやって、売って行くかというような、狙いがない中で、ちょっと素人みたいなのが、一生懸命、何か物作って売ろうと思っても、決してうまくは行かないと思っていたんで、そんなに無理はしてなかったの。こっから、いろんな仕組みが出来上がっていいデザインが出てくるので、売上を早い段階で、5億円ぐらいに、今の倍、今年の倍ぐらいには、なるようにやっていきたいなという風には思っています。

それは、クラブで出すグッズもそうなんだけど、クラブ全体の、それこそユニフォームとか、練習着とかっていう事に関してのデザインとか、見え方、見せ方についても、相澤さんとメーカーと一緒にやっていくという風にしていこうと思っているので、それは今年からすぐ出来るって事じゃないんだけど、来期以降、そんな風になって行くと思います。はい。

（司会）はい、次にご質問。はい、どうぞ。

（松原さん）すいません。松原と申します。宜しくお願い致します。

（社長）お願いします。

（松原さん）スポンサーの件で、ハードロックジャパンさん。

今回、IRの方が、北海道がちょっとダメになったっていう事で引き続きスポンサーをやって頂けるっていう中で先週の土曜日に番組がありまして、ちょっと拝見させて頂きました中で、ハードロックジャパンさんと、あと、サツドラさんとか、いろんな企業が番組に出て、すごく関心の高い番組だったなあっていう風に私は感じました。

その中で、今後の、何か、新しい展開とか、そういうのは、もしあるようでしたら、お願いしたいっていうのが1点、もう1点、ちょっと先程、練習場の件で、ちょっと思い出した事があったんですけども、石屋製菓さんの方で、いわきFCの練習場、確か見に行っていて、ああいうような練習場を作りたいっていう計画が作っているっていう、前に記事を、そういうのを記事を、見たような気がしてたんですけど、そういう展開は今後あるのかなっていうのを、お伺いしたいなと思います。

（社長）練習場に関しては、そんなのあった？あった？ ああ、じゃあ、たぶん石屋さんの方でも、見に行ったりしてるのかもしれない、只、具体的にあそこ、じゃあ変えて、どうしよう、また別の人にどうしようって事はないですけど、これは、何なんだろうな、クラブだけ、石屋さんにとって、コンサドーレっていうのは、もちろん大事な物ですけども、石屋製菓のもし、もっと、企業として大きくなっていくにあたって、あのエリアで何をやるかっていう事を考えなきゃいけない

いと、これ僕の想像だけど、思ってるとするなら、じゃあ、その時には、コンサドーレの練習場を、どこにどういう形で作るのがいいかみたいな事は考えてるかもしれないですね。今すぐに何かが、起こるとか、何かを起こそうと思って動いてるって事は、多分ないです。っていうのが1個。

それから、ハードロック。ハードロックのどんな番組なんだろう？

何の番組？ 梟巣か何かで、撮ったヤツですか？ 去年、撮ったヤツ？なるほど、分かりました。残念というか、僕ら残念というか、僕らは去年も言ったかもしれないですけど、北海道の為に、多くの人がこうなった方が良くなっていう物に対して、うちで協力出来る物は協力しますっていうスタンスはこれは変わらない。なので、I Rがもし、全くゼロになるのであれば、きっとハードロックさんも、I Rに向けてのコンサドーレとの関わりはなくなるかもしれないですけど、そうじゃなくて、一緒に組んでみた時に、コンサドーレと組むと、それこそ、ハードロックカフェの、との中でこんな取り組みが出来て、それ面白いねっていうのがあるんだったら、それは続けていくかもしれない。それは、そのスケールは全く変わってくるかもしれないですけどね。I Rがゼロでは、多分、ない様な状況だと思うので、それは彼らが継続して、何かのPRをするのに、コンサドーレと一緒にやるのが良いと思うのであれば、続いて行くでしょう。僕らは、それに応えられるような価値のある団体で、これからもいられるかどうかっていう、それ、すごくシンプルな所なので、もしそれがなくなったら、なくなったで、すごく残念な事なのかもしれないですけども、そんなに、そんなにって言ったらおかしいな、彼らが続けて行く限り、僕らは出来る事をサポートするし、サポートしてもらっている事ですね。 はい。

（松原さん）有難うございます。

（社長）あざっす。

（司会）はい、有難うございます。

じゃあ、社長への質問が、あと最後くらいになりそうですけど、お時間からいって。

はい、じゃあ、その方を最後に。

（オトサカさん）オトサカと申します。宜しくお願いします。

（社長）お願いします。

（オトサカさん）普段、私、SNSをよく使っていて、

（社長）はい。

（オトサカさん）コンサドーレのLINEも、ツイッターも、フェイスブックも、インスタグラムも、見てはいるんですけど、ちょっとコンサドーレのSNSが味気ないと思う事が多々ありまして、と言うのは、公式での試合の結果だったりとか、発信はすごくカッコいいなと思っては見てはいるんですけど、例えば、他のJ1のクラブだったら、フロンターレ。

架空の家族のアカウントを作って、よりサポーター目線のつぶやきが多かったりとか、FC東京だったかな、とかは日程が出た時に、待ち受け画面に出来るような試合の日程一覧を出していたりとか、こう、よりサポーターが求めているか分かんないですけども、食いつきやすいような発信が多かったりだとか、あとは、アイプランとか、アイプランさんとか、ダイヤモンドヘッドさんは、コンサドーレの試合の観戦録を載せてくれたりとか、身近に感じる様な事が多いんですよね。もうちょっとあったら、面白いのにな〜と、あと、フォロワーが増えたりするのかなと思うのが、ひとつと、あとは、ホームページに関してなんですけど、選手の契約更新の発表が、いつも、割と一覧で、名前だけが出る形になっているのが、ちょっと勿体ないというか、あれがもうちょっと、小まめに出てたりとか、写真が載ってたりすると、私達も、オフシーズン、もっと楽しめたりするのになあと考えているので、何かその辺が、もうちょっと上手くなったら良いのになという、素人の意見なんですけど、何か、その辺、インターネットの使い方とかで考えていらっしゃる部分があるのかなって思って、お聞きしたいなと思います。

（社長）はい、もう、今、スタッフが聞いていたので大丈夫です。

まあまあ、僕が、答えるっていうよりは、今、より良く、今、おっしゃられた事が、全て正しいとは思わないけれども、もっと良くして行かなきゃいけないよねっていうマインドは、きっと持ち続けなきゃいけないと思うので、それは、充分伝わったと思いますから、もう。

契約の所は、多分ね、まとめて発表するっていうのが、ちょっとカッコいいみたいな所が、今までクラブにあったと思うんですよね。何か、皆、まとめて更新しましたみたいな、ずーっとやってるでしょ？あれ、何で？あれ、何でなの？

(スタッフ) あれは三上GMが、サポーターさんへ、来年どういう事業計画で行くのかを

(社長) 来年、どういう事業計画で行くのかを

(スタッフ) すぐに発表させてあげる事が、一番・・・(???)であろうと。

(社長) 全員、一辺になって事？小出しにするよりも？何か、一応、そういう考えがあるみたいだけど、そうじゃないよなって思う人もいて、そうじゃないよなって思う人の方でやってみると、一辺に発表しろよと言う人もいてって事でしょ？俺は、何か一番いいなって思う事を、しっかり考えてやってくれよ。笑そういう事で。

(司会) 何か、怒られちゃったらね、次、言えなくなりますよね？

(社長) 全然、怒ってないですよ。

(司会) ああ、そうですか。

(社長) はい、怒るって言うより、お任せですから、僕は。

(司会) 分かりました。宜しいですか？はい、有難うございます。

じゃあ、社長、もうそろそろ・・・

(社長) はい、有難うございました。

(司会) お時間なんで。

(社長) 最後に、今年、去年、一昨年、4位。

去年、最終的には10、10番だけど、上を目指すところまで行って、ルヴァンでも面白い所、見せられたけど、そんなに変わってないと思うんですよ。

他のチームは、資金力ある所は、人変えながら変わってくる、うちは、人はそんなに変わってなくて、若い選手で、面白い選手は増えてるけれども、圧倒的にプラスになる何かがあるかという、そうではないので、継続してやって行く強さと、今まで、今日の話を、一番最初に言ったけど、立ち位置を、皆さんがどこに置いて置くかは、結構、重要だと思うんですよ。

まだまだ、力ないし、上に行くチャンスあるけれども、下で苦しむ可能性もあるクラブです。

そうじゃないクラブにする為に、今シーズンがターニングポイントで、僕らは頑張ってるやりたいとは思ってるけれども、まだまだ、そういう状況なので、もう一回、上手い出来ない事もあるかもしれないけど、そういう時に、上手い出来ない中でも、何か、次に進んで行くような勝ち点を拾って行くっていう様な、空気を是非作って、頂けたならっという風に思います。

ダメなやつはダメで、文句言ってくれて、全然構わないんですけど、まだまだ、伸びていかなきゃ行けない若い選手が多いと思うので、上手く扱って頂けたならっという風に思ってます。

大変なシーズンになるとは思いますけど、今シーズンもひとつ宜しくお願いしますという事で、僕はちょっと、ここで失礼させていただきます。

有難うございました。拍手

(司会) 社長、どうも有難うございました。はい、それでは社長がご退出なされます。

====テーブル交換の為音途切れ====

(河合CRC) えー皆さんお疲れさまです。

えー今シーズンもよろしくお願いします。

えー昨年はですね、この場で確かに引退試合を開いて欲しいと、で、僕も開きますと言った思い出があります。そして実際に開けたのは自分としても良い経験でしたし、こうクラブがどうやって成り立ってるのか、えー選手の、まあこうやり振り、えーと何ですか、人件費確保だったり、まあホテルの手配だったり、試合の運営の仕方とかを、まあざっくりではありますけど学べた、凄く自分としても大きな経験だったと思います。で、そしてあれですよ、引退試合ですよ。感想としましては、もう本当に自分としては、あのー2017年の清水戦ですかね、その試合でまあケガをしてしまい、まあそこでグラウンドに戻ってくるっていう約束を僕からはしたつもりで、まあその2018年のシーズンには叶わなかったんで、まあそれではちょっと自分の中で約束守った事にはなってなかったんで、まあそれだったらやっぱり自分の引退試合でしっかりと皆さんに感謝の場を伝えたいと思って、えー企画したのがまあ一番やった時の思い出ですね。やってみてやっぱり、あのー皆さんのこう暖かい声援も頂きましたし、こう何より最後のプレーを皆んなの前で、札幌ドームで見せられたって云うのは凄く自分としても、えー満足、まあサッカーは僕好きなんでまだ辞めたわけじゃないんですけど、一区切り出来たかなって云う試合になりました。

まあ家族にとってもそうですし、まあ支えてもらった皆さんにも、あのような形で良い報告が出来たかなとは思ってます。そのー資金とか集める事に関しては、どうクラブにマイナスを掛けないかってだけは考えていまして、そういう中で一つ、クラウドファンディング、皆さんの御協力もあって、あれだけの金額が集まった訳なんですけども、その、皆さんに協力してもらってからこそ、あのー金額が集まったと思うので、まあ本当にこのクラブは、ファン、サポーターの皆さん、北海道だけでなく関東にもいますし、全国各地にも北海道コンサドーレ札幌のサポーターって思うんですよ、その人達にやっぱり、こう僕がこんだけ支えられてるんだと改めて思ったので、そのファン、サポーターを一つに繋げようって云う役割で今、自分の立場はあると思うんです。そういう中では今年はやっぱりもっともっといろいろな、まずは北海道からですけど、もっとこうクラブを愛してもらえるように、クラブを応援してくれるような存在になるために、いろいろと自分が出来る事はやっていきたいと思っています。

そんなとこですかね。

(司会) ありがとうございます。それと今年入ってきた新しい選手、ご覧になりましたか。

(河合CRC) いいえ。

(司会) 見てないですか、それじゃあわからない…

(河合CRC) キャンプに行っていないので。

(司会) ああそうですか。

(河合CRC) はい、まあ高嶺と金子に関しては、高嶺は特にユース時代から見えますし、まあ実際去年も試合も出ましたよね。

そういう中で、まあユースの頃から基礎技術はしっかりあったプレーヤーと認識してるんですけども、より大学に行こうと揉まれて自分で、まあ体も大きくなってますし、自分でこう判断して選択出来るプレーヤーになったのかなとは思ってますね。で何より嬉しかったのはやっぱり、このコンサドーレに戻ってきた時に、自分はコンサドーレに育ててもらったと、そう云うなかでまた帰ってこられて嬉しいと、そういう言葉がやっぱり自分にも凄い刺さって、まあこれはこれからのアカデミーの選手にも、まあさっき社長も言ってましたけど、こうトップに上がれないからといって終わりじゃないなと云う、まあヒントにはなりましたね。

で、拓郎ですよ、拓郎は日大の時に、練習試合の相手で僕達が出てたんですけども、まあ上手かったんですよ。俺と一、誰だっけな、ヨコかな、菊地かな、菊地と俺は完全に殺られました。って云う位上手いなって云うプレーヤーでしたね。

本当にドリブルも出来るし、まあ決定的なパス、チャンスメイクも出来るんで、凄く楽しい存在ですよ。まあ田中に関しては皆さんの方が知ってるんじゃないんですか。

まあA代表、こう大卒でA代表が入ってくるなんて云う、コンサとしては史上初だと思うんで、まあ期待値は高いですね。

(司会) じゃあ凄く皆んな期待できますね。

(河合CRC) もう期待してください。

(司会) ありがとうございます。

(河合CRC) はい、以上です。

ありがとうございます、今シーズンもよろしくお願いします。(会場拍手)

(司会) えーそれでは、えー次に、えーとスタッフの方に誰かあの答えて頂きたいんですけども、今年のスタジアムの運営ですとかチケットの販売、入場の待機列整理のための前日抽選ですとか、その辺の会場運営に関して特に今年が大きく変わった点がありましたらご説明を頂ければ助かるんですが。特には変わっていませんか？じゃあ去年と同じように、前日の抽選も実施して、と云う事ですね。

(コンサ・吉田さん) 運営担当してます吉田と申します。皆さん今年も精一杯のご声援、よろしくお願いします。前日抽選、去年から始まりまして、勿論あの一北海道って云う大きな地の中でやっていますので、あの勿論来れる人、来れない人、実際にやってみて多くのご意見を頂きました。あの一勿論僕たちもそういった可能性は重重わかってましたけども、あの一1年間やってみて、えー勿論あの一他の、まあマリノスさんだったりとか、LINEでやってるチームとか、どういった運営してたのかって云うのもいろいろと勉強して、今も猶こうより良いこう北海道っていても、もう本当に実際抽選したらマリノスでもこう何千人とか応募来たりとか、えーしてるんですね。コンサドーレもやったらもっともってこう大きな規模になるので、今急いで、こう来年今年3月からいきなりこうWEBやります、って云うわけにもやっぱり開幕でやると大きなトラブルにも繋がっちゃうので、重重こう皆さんが納得行くような運営出来るよう今少しづつえー形を作ってますので、今のところはまだこう大きくガラッと変わらないんですけども、あの一決してこのままずっと行くと云うふうにも思っている方がいるのであれば、そこはちょっと勘違いしないで頂きたいなって云う所で、勿論僕たちもより良い、上に行くように今頑張ってますので、もう少しお時間かかるかなと思うんですけども、一応今年もこの形で行きますのでよろしくお願いいたします。

(司会) ありがとうございます。

あとスタジアムの券種で、特殊な券種が増えたとか、その辺がありましたらご説明して頂きたいんですが、特にありませんか。

(コンサ・渥美さん) チケットグループの渥美でございます、えーよろしくお願いいたします。今おっしゃったような特殊なチケットという事ではないですが、あの大きく変わりますのは、メインスタンドの両サイドですね、サポーターゾーンコーナーと呼んでいた所、まあ自由席、去年までは自由席で販売していました。こちらの方を今年から指定席化して販売するという形になっております。それからバックスタンドの中央部分の指定席、赤黒センターゾーンですけども、こちらに小中生用の価格帯を設定いたします。あの一バックスタンドに皆さんもう札幌ドームに何回も来てらっしゃるのでご存じかと思えますけれども、キッズパークという札幌ドームさんの施設がありまして、まあそれもあり、もう一つバックスタンドの自由席もわりとご家族でご利用されてる方が多いという事で、まあそう云う事もあって、赤黒センターゾーンと云うまあ指定席ですけども、こちらもご家族でご利用頂きたいなと云う思いで、小中学生の金額設定と云うのをさせて頂く事になりました。まあ後はあの一全体的には昨年の消費税増税という事もありまして、申し訳ないんですけどもチケットの価格を、少しづつ上げさせて頂いております。こちらが今季大きく変わると所でございますのでご了承頂ければと思います。

(司会) ありがとうございます。

じゃあ続きましてグッズに関して何か、えー先程も社長からちょっとお話がありましたけれども、えーいろいろな変わったグッズが出すとか、Ｊリーグの方と何か紐付けして購入するとか、いろいろとなってるみたいですけどもその辺のお話をお聞かせ頂ければと思っておりますが、グッズのご担当の方。

（コンサ・渥美さん）続きまして渥美でございますが、昨年から引き続き、先程野々村からもありました様に、相澤さんとコラボしたグッズというのは、去年やった感覚では非常に人気でしたので、そこは更に力を入れてやっていこうと考えております。あとはあの～昨年からなんですけれども、レプリカユニホーム、レプリカシャツについてはＪＯＳというＪリーグのオンラインストアを中心に販売しております、去年今年と非常に枚数的にも、準備をしております、昨年は恐らくクラブ史上で云うとまあ一番多く売れたんじゃないかなと思っております。

今年も引き続き、そう云った形で皆さんに買って頂けるように、そう云ったシステム含めて整備していきたいなと云うふうに思っております。

（司会）はい、ありがとうございます。

それとちょっとあの一何名かのサポーターから質問があったんで、私の方からお聞きしたいんですが、昨年のルヴァンの決勝でコンサドーレのゴール裏にどのぐらい人数が入ったのかって云うのが聞きたいと云うサポーターがいらっしゃったんですが、その数字と云うのをわかってらっしゃる方いらっしゃれば教えて頂きたいんですが。

（コンサ・田子さん）はい、広報の田子ですけども、去年もあのＪリーグ、いろいろとメディアさんからも問われまして、リーグの方にも確認しましたが、そのカウントはなされていないと云う事でしたので、実数として何名と云う数字はちょっとすいません、持ち合わせておりません。

（司会）はい、わかりました、ありがとうございます。

ではあと、時間的には１０分ちょっと位しかございませんが何かあのスタッフさんにご要望ですかありましたら、はい、真ん中の、はい。

（コカツさん）コカツと申します、よろしくお願いします。

えっと質問と要望と、あとお願いちょっと３つほどあるんですけど、まずあのー先程も話が出ましたけども今年オリンピックイヤーと云う事で７月にしばらく中断期間があると思います。

その際にですね、他のＪ１のクラブもですね北海道涼しいって事でかなりキャンプに来るクラブ去年もあったようだったんですけども、もしそう云うクラブがあればですね、そう云うクラブとあのー強化試合なり練習試合なりを組む様な計画があるのかどうかと云う事が１つと、あとこれ数年前からちょっと私とあとその他のサポーターの方からも出てましたけども、今年からあのー学生のシーズンチケットがＵー２３って云う格好で変わって販売されてますけども、前からシニアのシーズンチケットも是非ご検討頂きたいと云う事でお願いしておりましたが、あのーＵー２３と云う言葉が出ましたのでオーバー６０なりオーバー６５って云う格好で、シーズンチケットを作って頂ければ非常に助かるなと云うのが私の意見でございますので、その辺の所をちょっとお聞かせ願いたいと、あとこれはあのー私のサポーター仲間からお願いと云う事で先程ＬＩＮＥ届いたんですが、ちょっとこの場で言っているかわかりませんが、今までの、これですねゴール裏のですねコール件だそうですが、今までコンサドーレって以外と守備的なチームでしたので、コールの方もちょっと守備的な印象を感じていってまいます。最近ミシャに代わってからですね、サッカーそのものも非常に攻撃的に変わってますので、ちょっとコールの方もですね、もう少しあのー攻撃的なものにして頂ければなと云う事をちょっとお願いしておいてくれと云う事でしたので、ちょっとこの場を借りまして適当かどうかわかりませんがあのーお願いしておりますがよろしくお願いします。

ご回答の方は先程の中断期間の件とですね、あとシーズンチケットの現状をお聞かせ願えればと思いますのでよろしくお願いいたします。

（コンサ・吉田さん）運営の方でまず、中断期間に関してはまだ正直チームの方とそう云ったお話もしていませんので、まあもしかしたらこう中断期間が近づきにつれてもしかしたらチームの方で何か考えてるのかもしれませんが、まあそう云った事があればもし告知するような事があれば改めて告知したいなと思いますので、で、コールについてはあのーやっぱりこうコンサドーレ今年のゴール裏もあるんですけども、やっぱりルヴァンのああ云ったゴール裏、僕実際ゴール裏の方の警備にいたんですけど、普段レッズを担当しているさいたまシミズの方々も凄い驚いて、これだけ埼玉にこう響かせるチームもそうそういないって言ってましたんで、やっぱりこう自発的にこう皆さんの声援が選手の力になると思いますので、まあきっと良いサッカーを見せていけばきっとコールもどんどん盛り上がって行くのかなと思いますので、まあきっと今のこの質問はいろんなSNS通して通るのかなとは思いますが、で、チケットに関しては今チケットの方からお答えさせていただきます。

（コンサ・渥美さん）はい、えー渥美でございます。

まああのー毎年一回こうご要望頂くんですけども、そもそもそのシニアシート、まあ学生シートですね、まあ今年で云うとアンダー23なんですけれども、そもそもその成り立ちとしては、スタジアムがなかなか入らない時代に、ただ空けてるよりは何らかの割引をしてでも入ってもらった方が良いよねと云う発想から、年齢が高齢の方、そして、若い方、その方々に席が空いているのでお安くする、その分お安くしますから来てくださいと云う事で始めました。

で、まあそれがあのずっと、ご存じの通りなかなかこう満席にならない試合がずっとシーズン通してありましたので、いつでもそう云う割引のものがあると云う事になっていきます。

ここ数年まだまだ数少ないですけども何試合かは3万人以上入る試合が出てきている中で、それでも自由席完売になっても何とか何百席かと云う単位で、シニアシートと云うのは確保はしているんですけども、これをまあ皆さんのご要望の通りシーズンシート化すると、そのコントロールと云うか出来なくなってしまうと、どう云う事が起こるかと云うと、やっぱり興行収入の部分である程度の落ち込みが出てしまうと云うのが予想されます。

野々村も言っていましたように、今後50億円を目指すと云う所で云うと当然興行収入もそれなりの金額を稼がなければならないと、僕らとしても満席になる試合って云うのをどんどん増やしていきたいと考えてますので、なかなかこの現状でシーズンシニアシートについてシーズンシート化すると云うのは難しいと云う判断でございます。

じゃあ何で学生の方はシーズンにするんだって云う所で言いますと、正直あのー、60歳以上シニアシートの対象の年齢の方で相当シーズンシートご購入頂いています。

勿論シニアシートでシーズン化したとしてもこれまで同様に劇場シートとかでご購入される方って云うのはまあ多いと思うんですけども、中にはやっぱりシニアのシーズンがあればそっちの方が良いかなと云う事で流れるお客様も沢山いると思います。

そうなった時にやっぱり相当な収入に対してはダメージがあると、やっぱり60歳以上の方と云うのは、まあ勿論年金だけで暮らされてる方もいらっしゃるけど、まだまだ現役で働いている方もいれば、当然経営者としてやられてる方も色々いらっしゃると思います。

その点で学生さんとは違うと僕らは考えています。学生さんは、勿論起業している学生さんもいるかもしれませんが、まあそれは稀なケースだと思いますんで、学生さんの場合はやっぱり期間も決まっていますので、その後学生チケットで観ていた方々が当然まあ社会人になれば通常のチケットに変わりますし、その後家族を持ったりとか、或いは起業したり、企業で社長になったりとかで様々な形でまたコンサドーレを応援して下さるって云う可能性も秘めている方々と云う事でまあシーズンシートと云うのを設定させて頂いております。

えーこんな感じですね。

(司会) はい、ありがとうございます。

まあ基本的に、もう私もそうですけども60過ぎてコンサにのめり込んでいる人は今さら辞めない、まあだから値引きしなくても良いだろうと、ドル箱だから手放す必要はないぞと、それよりも次世代の若いサポーターに少しお金を安くして観てきて、で、後のコンサのドル箱になって頂こうと云う意味の営業戦略ですんでちょっとその辺はご理解を頂いて若い方々、バイトしながら頑張っている若い方々が安くコンサの試合が見れらると云う環境を今チームとしては作ってますよと云うところをちょっとご年配の方々皆さんご理解を示して頂ければなと云うふうに思います。それと、コールの方ですけども、それは逆にあのー現地でコールリーダーにこういうの作ったらと云う事を直接言っても良いかと思いますが、基本的にあのーコンサドーレのコールはマイナーなコードの応援歌が、メジャーなコードはないと思う、どちらかと言うとまあコール系と呼ばれる応援ですね、あのー鹿島だとか清水の様なサンバ系の応援ではないので、どうしてもやっぱり守備的な応援が多くなる傾向にはあります。

ただあのー相手を度肝を抜かせるようなその「行け札幌」と云う様なですね、あのーアカデミックな応援があるのも事実ですし、むしろ例えばJの中では一番なんか独自の応援歌が多いチームかなとは思いますが、えーまあその辺も多目に見ながら逆にもしどうしてもご希望があれば、あのーそういうのを直接コールリーダーに言って頂くのも一つかなと思いますのでよろしく願います。じゃあ後はあのー他の方でいらっしゃれば。

(柴田さん) すいません、柴田と申します。

今回ちょっと何点かスタジアム運営とかに質問とか提案があるんですけど、試合終了した時に退場する際バックスタンドの方から退場出来るように札幌ドームの試合して頂けないでしょうか。まあ例えばシャトルバスで帰る人とか、あと36号線からのバスで帰る人とかは、かえって一回階段から上がって降りて出てくれば楽だと思うんですけども、まあファイターズとかも同じようにやっているのでは是非ちょっとご検討頂きたいなと、後は日程表、地下鉄駅で自由に取れる様になっているのですが、小さいポケットサイズの物が昨年から無くなってしまったのですが、是非あのーポケットサイズの日程表と云うのも作って頂きたいのと、例えばコンビニエンスストアとかでも自由に取れるようにして頂きたいと思います。

(司会) はい、お願い致します。

(コンサ・吉田さん) はい、えーとまずお答え出来る範囲になるんですけど、あのーバックスタンド東ゲート、ちょうどセンターの裏の事言ってるのかなと思うんですけども、まあ実際あのー浦和だったりとか神戸とかこう3万オーバーの時、まあ実際いろいろ考えたりとか案もまああったりとかもするんですけど、まあ警備ポストの都合だったりとか、まあ実際開けてじゃあ南とすぐぶつかって結果分断しちゃうよね、とか、まあ開幕戦だと正直こう雪の関係で、ドームさんからも夏場は通れるとか、まあ僕たちが普段通る所の雪がそこに今除雪されてて埋まってて、実際使えないよねって云った所もあったりとかもして、まあ勿論こう真っ向からそれはもう使えませんって云う事ではないんですけども、まあゆくゆく常時こう25000人以上来ました、常に3万近くいて、やっぱり北と南がもうパンクしてもうダメだよねってなれば、まあいろいろこう考えていく必要があるのかなと思うんですけども、まあこう毎試合毎試合開けるって云うのもまたちょっとこう、例えばルヴァンの5000、6000しかないのにあそこ開けちゃって、まあちょっと警備、無駄な時間もかかってお金がかっちゃうよねって云うのもまたちょっと違うお話にもなっちゃうのかなと思うんで、まあこうやってご意見もあったって云うので、まあ「今シーズンやります」とはそれはまたちょっと言えないんですけども、勿論こうまた運営の計画にはこう3万オーバーとか入ってくると云った安全面とかありますので、そう云った所は僕たちも今聞きましたので、どうやったらこう皆さんが入退場をより良く、まあ実際こうスタッフにもこうラグビー観に行ったりと

かしてこういった入場ゲートの方法あるよねって云った勉強とかもしてますので、ゆくゆくはこう皆さんのストレスないような入退場出来るようにしていきますのでよろしくお願いします。

（コンサ・Aさん←名前不明）はい、後もう一つあのポケットガイドといいますか、小さい日程表の件なんですけども、こちらの方は一応すいません、まあいわゆるペーパーレス化と云うものもあるんですけども、もともと私どもで実は作ってはおりませんでして札幌ドームさんとJリーグが作られていたものを配布していた様な状況だったんですけども、まあ両者さんともにそれをお止めになられたと云うのがまあ事実としてありまして、まあ変わりではないんですけどもまあA4サイズのペーパーを、よく皆さんこの後間もなく2月26日に刷り上がってくるんですけども、三つ折と私ども呼んでるんですが、そう云った日程表の方は毎年より多く刷っていますので、まあそちらの方をお手に取って頂ければと思います。はい、以上です。

（司会）はい、ありがとうございます。

えーじゃあ後もうお時間もあれなので、あとお一方。

えー一番奥の方、あの柱の所にいる。

はい。

（小野寺さん）小野寺と申します、えーとよろしくお願いします。

クラコンとグッズの事、2点なんですけど、まずクラコンについては質問なんですけれども、会員証や特典を発送する順番がどうなってるのかお尋ねしたいです。もし可能であれば全て発送を終えた時点でいついつまでに手元に届かなかったら連絡下さいって云うような事をオフィシャルサイトでアナウンスして頂きたいなと思ってます。後はグッズについてなんですけども、あったら良いなと思うものをちょっと申し上げるんですが、マスキングテープが欲しいと云うのと、あと札幌ドーム内で販売するビールのプラスチック製のコップについてなんですけど、あの一日曜日にレバンガの試合を友人と観に行きまして、友人が飲んだビールのコップを見た所レバンガのロゴが入っていました。友人がコンサのロゴ入りだと良いなと云う話をしていたので、ちょっと代理で今日申し上げました。以上です、よろしくお願いします。

（コンサ・渥美さん）はい、また渥美なんですけれどもファンクラブの方ですが、ごめんなさい私もはっきりどんな順番でと云うのは、すいません把握はしてないんですけども、後半で仰られた、発送を終えた段階で、「届いてない方はご確認下さい」と云うものについては、検討してできればと云うふうに考えております。あとグッズについてはアイディアとして承ります。

はい、それは持ち帰らせて頂きます。

（司会）はい、えーじゃあこれでお時間も来ましたので終了とさせていただきます。

では、ヨーデルさん、前の方へ。

（山本さん）立ちますか。

えー去年ルヴァンカップ埼玉スタへ行った人。

（会場参加者から）はい

（山本さん）はい、当日のゴール裏の数は数えられなかったんですけども、この場でかなりいたと云う事がわかると思います。

あのえー埼玉のスタジアムに入ってきた河合さんがあのカップを持って入って来るあの絵をまた今年も観るように皆んなの応援で後押しして行きましょう。

えー公式戦開幕までもうあと5日しかありません。

えーテンション上げていきたいと思います。

それではコンサドーレコールいきましょう。

せーの、コンサドーレ。

=コンサドーレコール=

====終了====